近江國輿地志略

四十九之五十三

和書門 類 二九一五八號 一一函 一一架 二り冊

内閣文庫 和書 類 二九一五八號 二〇冊 一七四函 一四架

内 一〇九三十號

内閣文庫		
番號	和	29158
冊數	20（11）	
函號	174	166

国立公文書館 National Archives of Japan

近江國輿地志略巻之四十九

臣 寒川辰清編輯

甲賀郡第一

甲賀郡の名義ハ日本紀天武紀ニ鹿深ニ作リ續
日本紀ニハ甲賀ニ作ル日本後紀[illegible]
ニ載ル處ノ甲賀ヲ[illegible]油日神社縁起曰聖徳太子誅
守屋[illegible]年[illegible]中卯月日當國ニ行幸[illegible]
因縁[illegible]郡[illegible]甲賀[illegible]油日[illegible]社[illegible]祭祀[illegible]
[illegible]
[illegible]

近江國輿地志略巻之四十九

内閣文庫
日本政府図書
一〇九三七號

臣 寒川辰清編輯

甲賀郡第一

夫以甲賀郡の名久し日本紀天武紀ニ鹿深ニ作ル續
日本紀ニハ甲賀ニ作リ日本後世記餞庄作記及餞庄
和名抄當以甲可ニ作る 油日神社縁起曰聖徳太子誅
守屋勝照四年戊申卯月日當國有行幸因勝軍之
因縁先郡号甲賀云々 臣按するに油日社の縁起を
偽説のことよく論ずるまでもなし勝照と云ふ年号日本
なれしいはれもの年号をや太子と行幸と誤て定むべし

甲賀の名何と此所ニ始りしや實傳も聞さる處なし
續日本紀聖武天皇紀曰天平十四年二月庚辰始
開恭仁京東北道通近江国甲賀郡云々朝野群載
曰天暦十年六月十三日太政官符近江国應以
散位従七位上甲可公是茂令追補部内凶黨事云々
凡此邦の地勢畧扇子の形ニ似て南廣しく北狭し
南ハ伊賀国界信楽焼尾油日山ニ接し坤ハ山城国裏
白嶺（巔）の土の山ニ隣 西ハ栗太郡の界ニ連る 乾ハ野洲郡
の界桜山ニ至り北ハ蒲生郡の界ニ並長く亦蒲生郡
ニ接る東を要とハ伊勢ニ續く東ハ伊勢国界於岐須

山鷹巣ニ至り其を同国界鈴鹿山ニ隣
○甲賀山 まことに處所し甲賀一郡の山ハ皆是甲賀
山なれとも宗祠ニ出ん四海太平記ニ永正十年二月十九日
將軍義尹公ハ河堀將監和紐ヵ計ニよつて辛崎より船
ニて矢橋ニ着まして甲賀郡ニ役の御所をかまへられ
安座なし奉ることハ佐々木高頼ニ新將軍家ニ
打ま申甲賀郡ニ籠り佐々木承禎ト信長ニ取合け
甲賀郡ニ隠り凡廿餘山深く谷幽にして守據なるし
夫木集　　　人丸
秋くれハかしの杜山ニ立雲を流るもいとする流れた

○信楽荘　此所ハ山深くして信楽山と名づく高所に
續日本紀に紫香楽の字を作る　信楽荘ハ八村を云ふ
宮町　勅旨　神山　小川　多羅尾　杣京　黄瀬　牧村　此八村ハ
朝宮　屯尾ハ信楽の外村なり　是ハ今みれハ郡の端村なり
保建大記曰信西素善天文推歩當白虹貫日入奏
曰將有變速避之直奔南都踰信樂山又見星變謂
我不免乃生埋土中信頼遣前出雲守源光保索而
獲之斬首梟京師云々今信楽の高き所也詳ならず信西ハ
藤原光憲と号る剃髪して圓空と号し後信西と
改む　進士蔵人実兼の子なり　平治物語に云少納言信西

宇治路へ叶はで田原の奥大道寺と云所に行てある
石堂山の後信楽の峯を越て遥かに分入と云々
百錬抄に曰信西信楽山に於て自害すと云々臣按ずる
に是等の説を以て見る時ハ信西の墓信楽の中に有
の義明なり　然れどもなし　墓ハ山城国大道寺村観音
堂の前道の側にあり　山城名所志に曰石堂山信楽皆
近江なり　大道寺より寅卯に当て　其路三里を絶て
彼塚を江州にありと云ふ事今此所にある事　平治に実し
古老云光保塚を穿て信西を出して京に帰る
此所に至て息絶て死ス　仍首を捕て帰る　其頭哉

此歌ハ堪能ことにて此説的実なるべし

續後撰集　　　　源重之

春立とかや聞ゆるらん信楽の外山ハ霞にこもれけり

續古今集　　　　中務親王

今よりや外山の色もかはるらん秋風すさむしからきの里

金葉集　　　　隆源

都にはさかりなるらむ花ハ信楽のまきの松山あと絶なん

詞花集

手もたゆく払ひも隠し信楽の外山の霞まよふなりけり

新勅撰集

○志からきの松の梢もあらはれて世にふる雪ハ消もあへぬらん

新後撰集　　　　隆祐

志からきの外山の雪のきえぬ間ハ見ず里とも初音鳴かん

續後撰集　　　　通氏

春雨に霞ハ信楽の外山の雪も今や消ると

續後拾遺集　　　　承覚

鳴わたる音も遠く志からきの外山を見る夕立の雲

新後拾遺集　　　　頓阿

里人ハ衣うつ也信楽の外山の松や嵐ふくらん

六帖

よみ人志らず

信楽の峯をならしゝ嵐をもいとゝ物思ふ比かな

新六帖　為家

雨ふれハ外山の松に山彦もこたへて秋の夜ぞふける

壬二集

ふりつもる外山の奥の雪のうちに埋もれぬる杉の一村

夫木集　但馬守經政

みかきもり楢の葉さやく霰ふりて錦さへ信楽の里

○黄瀬村　是ハ聖武天皇宮居村の北ニ當れる村ニして牧村より十八町あるなり

○法国寺　黄瀬村ニあり　浄土宗

○無量寺　同村ニあり同宗

○西念寺　同村ニあり同宗

○内裡野　黄瀬村ニあり　村より巳午の方ニして八九町四方ばかりの郊原なり山をも内田山といふ　土俗或ハ禁裡聖武天皇遷都の地なりと云　桜多くあり　珎なり

續日本紀曰聖武天皇天平十四年秋八月癸未詔曰朕将行幸近江国甲賀郡紫香樂村己亥行幸紫香樂宮庚子行幸紫香樂宮同十五年七月癸亥行幸紫香樂宮同十月壬午東海東山北陸三道二十五国調庸等物皆令貢於紫香樂宮乙酉皇帝御紫

香楽宮為奉造盧舎那佛像始開寺地於是行基法
師率弟子等勧誘衆庶十一月丁酉天皇還恭仁
宮車駕留連紫香楽凡四月焉同十六年十一月壬
申甲賀寺始建盧舎那佛像體骨柱天皇親臨手引
其縄癸酉天皇幸甲賀宮云々是を以て考へし土人
の言ふ所と云ハ故あり甲賀寺の跡なれとも今に礎等
處々に残れり土中を穿てハ多く古瓦を得る事有
甲賀寺の瓦なるへし何の日此寺廃せしにや詳ならす
續日本紀にハ紫香楽宮に行幸と記し後にハ甲賀の
宮に幸ありとあれハ其地名別のやうにきこゆれとも同し

事なり紫香楽の行宮を移して甲賀寺となし玉ひし
なり後の行幸の所も前の行宮なれハ甲賀宮と書るなる
然して此地佛を鋳りし事ハ今に鍛冶屋跡なとゝ云処
此傍にあり黄瀬村の農工次郎九郎といへるものあり彼か
先祖此大佛の事にあつかりし者也といひ伝ふる所なり

◎信楽川　黄瀬牧村の中間を流れ西へ流し栗太
郡へ流出大戸の瀬となり黒津川となる詳に黒津川の
條下に出さん

○牧村　黄瀬村の東にあり勅旨村より十八町有
牧郷を拓の字に作る然れとも天智天皇の御時近江

国ニ牧を玉とよめり　東日本紀にあるハ此国牧村の名なる
くあるを理なりとせり牧の字なるへし
○天満天神社　牧村ニ在祭神菅丞相の霊也　徳治
三年菅を勧請を祭礼毎年四月初の卯日　吉宮町
村黄瀬村の産土神なり
○天徳寺　則天満宮の別当なり松寿山天徳寺と
号ん天台宗
○永仙寺　同村にあり浄土宗
○妙楽寺　同村にあり日宗
○真行寺　同村にあり天台宗

○車野　牧村より勅旨村へ行る村界にあり相伝
聖武天皇の御車を立置し地なりと云
○車塚　車野にあり山手を塚といへり今あるは桜の
大一樹あり土俗或ハ家隆塚ともいへりいかなる故とこれ
と知れ只粟太郎葛川村にも家隆の松とてあり家隆
を信楽を歌に詠し玉ふ事ハ多く壬二集にえらんてノ
此邑巡行の事もありしにや覚束なし　家隆ハ壬生
の二位と号ん権中納言光隆の二男なり嘉禎
二年十二月廿日病にて出家七十九歳法名佛性
同三年四月九日逝く八十四歳

○岩倉薬師堂　牧村にあり

○布土嶽　牧村より一里半乃伊賀ハ近江の西界也

○勅旨村　黄瀬村の正南に在牧村より並路皆
長野十五町あり土俗ていし村と唱ふ此地ハ黄瀬
村と同しく陶器を出す此辺土産の陶下に就き古信
廃帝此地に行幸ましましく勅の旨ありしかれハ此かゝる村の名を
ほとと云臣窺に按するに　廃帝の保良乃都と云ハ此地を
かくと号する地有　廃帝の古跡あり村の名といはれ斉
此地明かるへきにや　勅夫神紀庭つ記ある地にあらはと云説も
あるゆへれとも果而廃帝ハ都の名をも残し許なり　廃帝ハ

天平宝字三年に保良都と保良宮に遷都せしハ天平宝
字五年なり天平宝字八年にハ帝位を廃せしむるにより
しかれハ淳仁三年のつゝきなり　続日本紀曰廃帝天平宝字
五年冬十月遷都於近江国保良宮
云々と見えたるへし但し　勅旨と云処諸国に多くあるも往法
上皇より勅旨をもつて處ありて牧なり八月の御幸より
古ハ寧上京とし給しも捨芥抄にもみえさり　然らハ此勅旨も
牧に陶器と名るやう先達に　牧村ありしハ如何しく以て
牧に何れ名なるを出し

○天満天神社　勅旨村に在社傍に光源寺

○玉桂寺　同村にあり真言宗なり坊舎行基の作

○保良田都　土俗の伝に玉桂寺の上なる山の御墓ハ廃帝
の御墓所なりかれこれ保良と云も伝廃帝此地に棲
止し給ふ古昔ハ岩窟の洞あり廃帝の御製に
志らぬ山の奥に住居してかくれ住の洞に我ありと世
此世を捨つの葉に志るしを佗楽門へ流し玉ふと云窟今
崩れて跡かたもなしと云伝　楊左ハ動旨村一郡を経
の村をさす古の都の跡なりし保良といはれしなりしかれ
ちかきハ例の土俗の誤りしく保良といふより岩窟と
世の人呼てかくれ岩屋といへ今ハ明しと云虫食し知りて云

志らぬ山の奥に住居してかくれ住の洞にありと知る人
廃帝の御歌なりしといへり此前洞より保良都の古跡
前より谷へ出せり

○神山村　杣忍より一里程江田村長野村ハ当村
の枝村なり加り中西村と云

○牛頭天王社　神山村にあり

○法蔵寺　同村にあり浄土宗

○篠峰（サヽカ）　神山村より一里半左伊賀近江の国界也

○江田村　神山村の枝村なり杣忍村より十二町左

○浄土寺　江田村にあり浄土宗

○長野村　神山村の枝村なり杉原村より十八町在

今此村ニて磁器を出ス土俗ニ信楽焼と云

○天満天神社　長野村ニ在

○法輪寺　同村ニ在浄土宗

○常勧寺　同村ニ在同宗

○小川村　宮村の南ニ在杉原村より十八町有

○清光寺　小川村ニ在浄土宗

○大唐寺　同村ニあり真言宗

○近衛殿塚　大唐寺界内ニあり土俗ニ相伝近衛基家公の塚なりと云臣按るに近衛家ニ基家公と云なし

大職冠二十五代後心院基平公の男ニ関白左大臣家基公と号するあり是なるへし弘仁年中の近衛家ハ家元当時の家父公より十六代以前なり相伝近衛家基公信楽ニ蟄居の事あり多羅尾氏ハ其時の落胤なりと云臣此事を近衛家ニ相尋ねしにさしたる知れたる事なし信楽ハ其時代の所領なりしと云家基公ハ浄妙寺とも高山寺とも諡号あり永仁四年六月十九日薨去二十六歳なり

○古城址　小川村ニ在広さ二町ニ壱町計是多羅尾道可の城跡なり道可ハ天正年中の人なり

道ハ東ハ栗太郡ニ出ル
○信楽越　是ハ小川村より伊賀国丸柱村ヘ越る路也
式ヶ尾杉越とも云也江国勢田杉本より国界と九里半
国界より伊賀国上野ヘ四里半
○多羅尾村　小川村の南東にあり　村なり小川村より
一里半あり應仁二年七月大納言義視江州多羅尾ニ
移り九月二日多羅尾浄土寺ニ居止ス参籠と續
太平記ニ見えたり
○高宮権現社　多羅尾村ニ在
○浄眼寺　同村ニ在　浄土宗寺ニ而浄土院是号ス大師の作

○平楽寺　同村ニ在　真言宗寺ニ而不動明王
○不動寺　同村ニ在　本尊石像の不動
○龍泉寺　多羅尾ニ在　重編應仁記ニ出
○於土岐越　是多羅尾村より東の方伊賀国西山村ヘ
越るの路なり近路なれと地崎と難有於土岐越の名あり
勢多杉本より国界へ十里国界より伊賀国上野へ二里半也
於土岐嶺ハ伊賀近江の国界なり多羅尾村より行程一里
○野殿越　是多羅尾村より山城国野殿村へ越るの
路なり乃近江山城の国界なり多羅尾村より一里半あり
是等續日本紀ニ所謂十四年二月庚辰始若仁ニ去東北の

道を開近江国甲賀郡に通ずといふ是なりと云し

○朝宮村　杉山村の西にあり黄瀬村より四里呼虎村
より三十町斗行程あり杉山村よりも三十町斗ありて廿餘家
村に上下二村あり朝宮村の坂乃上より湯屋谷といふ処あり
あるとを山と云ふ事五町斗に嶺あり是山城近江の国界
なり湯屋谷より朝宮村へハ二里半あるなり

○三所大明神社　朝宮上村にあり

○誓光寺　同村にあり浄土宗

○仙禅寺　同村東谷の奥にあり岩谷山仙禅寺と
号す岩屋あり毎月朔日に護摩を修す本尊十一面
観音春日の作

○牛王社

○稲荷社　俱に朝宮下の村にあり

○徳源寺　同村にあり浄土宗

○古城址　同村领にあり何人の居城といふ事を不知或号
赤松満祐伊賀貴の助志ありしく棲止せしといへり

○裏白峠越　山城名勝志に越白越に作れり是朝宮
村より山城国宇治田原に内裏山田村へ出るの路なり紫多
樒あり山城国界へ七里近江国界より山城国宇治へ六里なり　此裏
白越山城近江の国界なりおよそ嶮なりといへども牛馬荷を

負て往来せしも續日本紀に恭仁京北の道を開近江国
甲賀郡に通せしといふもこれ是なるべし

○黒尻村　朝宮村の西にあり栗太郡富川村の東に當り
谷筋の路あり嶮難にあらねば牛馬も通ひて富川村より行
程一里枝村と樋井村と並べり

○大宮権現社　黒尻村にあり

○本覚寺　同村にあり浄土宗京一心院の末寺なり

○樋井村　黒尻村の枝村なり富川より十八町にあり此村の
笠神の森下の川を甲賀栗太両郡の界とす界の東
栗太郡富川の森下に接するなり

○光明寺　樋井村にあり浄土宗京一心院の末寺なり

○杣原村　上中下三村あり中野村田代村畑村杉山村は
宮枝村なり朝宮村より一里あまり今昔物語に近江栗
太郡に大なる柞の樹あり其木五百尋なりしといふ志賀栗
本甲賀三郡の土民此木の為に日あたらねば田畠作る事
ならずしてその郡のものこれを憂へて帝に奏して帝掃守の
宿禰を遣はして此木を伐倒さしむ依て土民田畠富饒
なりしといふ旦按するに今昔物語には栗本郡にありとあれ
ども此世の沿革また郡の古今によりて異なりしかれ
ば疑しくは杣原といふは昔これ柞の樹ありし處なるべし

○牛頭天王社　柞原村ニ在

○真徳寺　同村ニあり浄土宗

○中野村　柞原村の枝村なり

○来迎寺　中野村ニ在浄土宗本尊阿弥陀春日の作

○蓮華寺　同村ニあり本尊薬師行基の作地蔵
并ニ恵心の作なり

○杉山村　柞原の枝村なり柞原より十五町あり

○光岸寺　杉山村ニあり浄土宗

○畑村　柞原の枝村なり柞原より一里あまり七

○春日大明神社　畑村ニあり

○田代村　柞原の枝村也柞原村より一里半余なり

○極楽寺　田代村ニあり浄土宗

○宮町村　勅旨村の西ニ在牧村より坤ニ当り黄瀬より
十五町あり

○飯道寺山　宮町村ニ在俗ニ飯道山と号ス
金葉集ニ護人並ス
近江ニハありといふ飯道山君を越ル人と称さし
然ルニ飯道寺ハ草創以後金寺山と号ス古名ハ飯道寺山
とも有り麓より十八町登ル勝所より堺多へ二十九町
堺多へより枝村へ五十町枝村より大島居へ二里大??より

黄瀬へ一里黄瀬より宮町へ十五町宮町より飯道まで十八町
ばかり

○飯道寺　飯道寺ハ山上ニ在役行者の開基也和銅年中
金勝山安頼和尚の弟子安覚和尚中興ス安覚の弟子を
重覚と云よりて法相宗なり重覚の弟子を安義法印と
いふ安峰寺修験道を修す然七百年以来梅本院岩本院
大峰当山方三宝院御門主の先達を勤め毎年金峰山に
入の縁を以て此時より山号を改金峰山飯道寺と号ス
五院あり五大尊を表すと云　五坊ハ本謂梅本院岩本院
古庵宝鳥居坊水本坊也今梅本岩本の二院のミ住僧
在り此五院の内ニ末坊あり梅本院 戒乗院　岩本院内 西方院
古庵宝院内 智積院 不動院 行満房 明性坊 寿命院　鳥居坊院内 金剛院 寿量院 法乗院 宝泉坊
水本院内 化城院 実蔵坊 常楽院 松寿院 大蔵坊 常住院

○本堂　本尊薬師如来日光月光十二神将安す
阿弥陀仏不動明王役行者の像等安置ス

○護摩堂　本尊不動明王

○如法堂

○十一面観音堂

○弁財天社　寺の中央ニ在寺僧云南北との神也と云誰ならん

○飯道権現社　寺僧云是ハ熊野三山の権現なり女人

の高嶋山に准ると云臣按るに祭神素盞烏尊なり
飯道神社ハ延喜式の神名帳に見えたり近江国甲賀郡
八座の中にて式内の社也三代実録曰元慶八年三月十
七日戊子授近江国従五位上飯道神従四位下云々
是なり呼て古来の神社なりと云へり浮屠氏の為に
合せられて両部習合の社となりて飯道寺といひて伝を
知る人なし嗚呼古実の妄失せる事悲しからんや弁財
天と称して却て地主と称す若地主をいはゞ此神社也
再し国史実録にも飯道の神と載て権現の名を云ん
況女人の高嶋山といふ事児女子の戯言なるべし

抑此宮山と餉山と号し来るも此飯道の神なれば
山への名なり当村を宮町と号せしも此神社よりの
なり古を好む君子意をとゞめて諸君さとらん也

◯山王権現社

◯白鬚社　飯道山西の麓にあり

以上飯道寺の支配にあり一山天台宗にて比叡山の末寺也
御朱印二百石信楽宮町高二百五十石の内と寺領にて
臣按るに六百五十石程は飯道神の社領なるべし往昔
乃今や廃して今は二百石賜りて寺領とし其御朱印
あるなるべし毎年四月二日柴燈大護摩あり正月四日西の

山麓白鬚の社まて行なり柴燈大護摩執行ある三月二十日法
人群集す七月梅本岩本二院今峰山へ入峯し九月
出飯道寺へ帰る別当飯道権現の神前にて柴
燈大護摩あり最父派の式法あり

○法性寺　宮町村にあり浄土宗なり阿弥陀恵心作也

○西光院　日村にあり浄土宗観音の像あり相伝ふ
光明皇后の守本尊也と

○鵜飼駿河守城址　宮町村にあり鵜飼駿河守は甲賀士廿一家
の内なり

近江国輿地志略巻之五十

臣　寒川辰清編輯

甲賀郡第二

○檜物下庄　石部村柑子袋平松針夏見吉水三雲
妙感寺岩根朝国正福寺菩提寺東寺西寺等の諸
村を云　臣按するに檜物といふは速野の字にして日本紀
にあり往古蒲生郡速野里に属す此等下速野郷の中なり
しかるに檜物荘と云詳に蒲生郡檜物荘の條下に載る此郡に
蒲生郡にある檜物荘とさしてて檜物上の庄と云当郡にある檜物
庄をさしてて檜物下の庄と云なるべし

○石部村　甲賀ゝ栗本二郡の堺なり 今東海道の
驛所なり 栗本郡東津郷なり 三里なり 石部と号る事
は石部の神社あるを以て号と云

夫木集　長明

伊勢へまかりけるにちからといふ頭の所にて
ゆふと待たる風ゆるし 雲出て馬よりおりてまなひ
の中にうつろうして

横田山石部のうれきたまき みす秋風さむし 朝立してさ

闇斎詠

指来石部山青嶂翠巒間

砂磧疊堆去曾無草木省

○正一位吉御子大明神社　石部にあり社ハ四面升形作
界内六百十八間 巡祭神吉辞 油日大明神と勧請ある処
なりと云 言に白 油日大明神ハ大己貴命 伊弉諾尊猿田
彦命なり 如意輪観音摩利支天勝軍地蔵の垂跡と
平野蓮華寺の氏神なり 百九十年以前 石部郷ま
なりしより 石部の五ケ町五町の産土神と信ずと云 且 按
さるより 此地を限りしは土俗の言霊妄の説多くしてあ
採用るに足らざれ 大和姫世紀曰 倭姫命度坐於
尓阿佐加潟尓多氣連等祖宇加乃彦之子吉比女

次吉彦二人参相支云〻尓昨吉姫地口御田并麻
園進云云或書曰石部驛所祭二座上号吉彦大明
神社下号吉姫大明神云〻是をもつて見れハ倭姫世
紀にみえし河原の神社なるへし油り大明神乃事ハ油日の
条下に出たり祭礼毎年四月二の酉の日なりと

○上田大明神社　同村にあり土俗当社ハ嵯峨天皇の
御宇上田蓮浄大塚吉生と長者二人奏聞を経て千手
観音十一面観音の両堂を草創す其後の鎮守なり
織田信長の兵火に寺院烏有しぬ今寺に鎮守の社斗
残れり今の上田の社是なり本地虚空蔵并祭礼

毎年四月五日石部より社に参ると云臣按するに上田蓮
浄大塚吉生と云者都にて菩提寺に此者あつて力を
寺院を草創し宮と申けるは事なき事に及ひさる条を
こゝに神号とさへおいたれなりし然して霊仏の主なる本
按するに此社延喜式神名帳に載る所の甲賀郡八座の
中の石部鹿塩上の神社と云是なるへし祭神大比女
歟なし事は前の条下にて見えたり石部上の神社と号
せしとそ頃へ先の上の宮とはなにふ如何なりし

○善隆寺　同村にあり石部山善隆寺と号す浄土宗
金勝東坂阿弥陀寺の末寺なり天正元癸酉年覚誉

的應和尚の開基なり 阿弥陀如来ハ行基大師の作なり
始め当所の町裏にあり地利宜からざるにより貞享元
甲子の年今の地に移して造れり 石部右馬允平家清も
肥前守源なり 此寺を随寺とし家清も草創しと云

○真明寺 同村にあり浄土宗金勝阿弥陀寺の末寺也
願誉蓮宗の開基 慶長二丁酉の年此建立ありて当寺
地に青木右馬允佐藤安房守なり 右衛門佐ハ信長の
家人紀伊守一矩初め勘七郎と云 此子息にし一矩ハ後
越前丸岡の城主となりしなり 子を右馬允と云 並に是を相と

○明清寺 同村にあり一向宗西本願寺の末寺なり

○蓮浄寺 同村にあり一向宗東本願寺の末寺なり

○浄観寺 右同断 浄現寺ともいへし

○西福寺 右同断

○立石川 水源ハ金勝寺村の山より流出川下西
部枝松川へ流れ此川に入合と像右枝村より此川に傍て
石部に出て路岩をそし山間迷れ出でし且立石川と号
そのゆへ川の中に大石二つ並ひれ立出へ此名あり

○西寺村 石部駅の西にある村なり此東に東寺村
あり土俗是を南部の都此時に東寺西寺也と云非なり
善東部の東寺西寺といふて東大寺西大寺と云誤なりへし

に行を遥くし此地まてに及んや或ハ云滋賀の都の時も
東寺西寺なりと云説も非なり　桓武天皇延暦十三年
都を今の地に移して平安城是なり西寺村常楽院を
元明天皇の草創なる寺村長寿寺を　聖武天皇の草創なり
○水鏡一代要記及歴代皇紀と按するに延暦十五年東寺を
創藤原伊勢人を以て東寺の長官となしてより帝
王編年紀に曰延暦十五年東西の両寺を建立し東西
京の鎮護となすと云是を以て考ふるに帝都鎮護の東
西両寺なりしハ一時に草創ありしに此両寺ハ元明帝と
聖武帝との時代なれハ唯同し如きに二の伽藍並ひ建

西へ西の方にあるを西寺とし云東の方にあるを東寺とし云ふなりし

○常楽院　西寺村にあり阿星山常楽院と号ス天台
の所謂西寺是なり縁起一巻あり按するに縁起に金
粛菩薩の霊地元明天皇の草創行基上人の再興にて
七堂の大伽藍なりしと云ふ然るに近世衰微頽敗
して終に一観音堂及宝塔一基となれり

○本堂　甚営造甚美飾画棟彫梁既にして傾蔵
を経略摂津国天王寺釈迦堂の形に似たり本尊今の説
音堂ハ古昔の釈迦堂なり本尊観音腋立二十八部衆
倶に運慶か作なり廿八部衆ハ那羅延堅固天弁功

徳天密迹金剛大梵天王摩醯首羅王帝釋天王東方
天金色孔雀王毘樓勒叉广和羅女毘樓博叉満賢車王
神母天五部淨天雅陀龍王迦樓羅王緊那羅王阿修
羅王金天王乾闥婆王娑迦羅王金毘羅王満仙王广侯
羅王散脂大将半娑羅王彼藪仙人風天雷電なり此
観世音の像ハ阿星山頂の精舎にあり中世阿星山の
堂舎灰燼となりし自餘の財寶ハ運ひ出しけれとも此
観音の像炎の中より躍り出て今の本堂（古釈迦堂）に来て
今に存する事を得たり尓来此堂の本尊として釋迦
の像ハ宝塔に安置せしと云

○三重宝塔　釋迦如来の像を安置せり此本尊ハ譯所り
今の宝塔ハ應永五年釋延慶ト云人再興せし所也
○石宝塔　本堂の左数十歩にあり古傳に往古剃髪
を釋迦堂の下土中に埋め置しを石にて囲ひしといへり
中世釋迦堂を移して観音堂となされし後ち髪を堂下に
納る事となし此石塔を建て塔下に納むと云
○山王権現社　本堂の左に在れの祠とて本とせしに
以て常楽院の寺内に在し什物多し細字の法華經一巻五
紙の天地四寸長サ一尺許にて微細いふへからさる處なり
奇にして是を見る所ハ只墨をかけし様を引る如し詳ならす

と有けるは則ち文字鮮明なり其奥書に曰應永二十
四丁酉年五月十二日甲賀郡常樂院施入之執筆
道智比丘三十三歳四十五日書寫云〻紺紙金泥
の法華經弘法大師の筆なり龜山院の官符に曰白
水天供可令勤修給右少辨時熈奉之西輪院御房
云〻沙門勧進の状世尊寺行尹の筆跡なり釋迦
八相の圖傳教大師の画なり彩色十六羅漢晁殿司の
畫なり赤鬼の假面二ツ一ツは角あり一ツは角なし倶に
運慶の作なり此寺古昔正月十二日夜及十五夜土人并
の假面を被り夜叉の形と擬し炬火を把て此堂を逐走

此堂の前後を巡行す是を鬼走と云何れの日より此事
退轉せし蓋儺名（追儺ヵ）の遺事なるへし今西福院寺の事
に預る古昔の坊舎乃跡も多く無し天台宗比叡山
の宗派なりし日一日此地を巡覧するに棟傾き軒朽ち
甚頽破に及ひ猶他日の荒廢料知せしむ故に請の
形なくして人事此に多くあり

○東寺村

西寺村の東八町斗に在西寺村の条に栽

○長壽寺

東寺村に在阿星山長壽寺と号し
土俗の所謂東寺是なり聖武天皇の開基金鷲菩
薩の霊地清和天皇の再興なり往古ハ大伽藍なりと

今終に一堂となれとも尚地蔵菩薩像ハ行基法師
の彫刻する處なり阿弥陀佛像一躯ハ法厳后亡母
追福の為に安置せしむる處なり胎金両部の曼荼
羅ハ傳教大師の畫なり観経曼荼羅恵心僧都の筆
なり十王の図十幅及涅槃の像一幅顔輝之の筆也
源頼朝の寿永二年二月廿四日槽物荘許多の田地
以て寺僧に充てられし一通あり源尊氏の一通あり
延徳三年六月十四日恵林院義材の一通并模守貞
時の一通等あり赤鬼の假面あり并傳ふ此假面ハ西
土より伝来せる處なりと当寺にても古昔ハ西寺村

普楽院と曰し又鬼薬れる養老年中より始りし事なと
也り今ハ西寺にても絶たれし　当寺に狩野柳園筆樺
桜の畫一幅あり六條黄門有慶卿の和歌載てあり此畫
旧樹の形なりといふ先君雄山公名木の絶たる事をなけかせ
られ旧臣三枝郡大夫晴篷寒門水右衛門辰成をして其旧
樹の形を考索なさしめ狩野柳園に畫しむ六條黄
門有慶卿に乞て和歌をおさめ当院に収しをき處也
高栂豪意光後
追記する椿の北里の加を桜花といひて継々生て人もなし
此哥夫木集にも入れり一説下句ちりしハ昔のなこそあれ

有りと云但此下ハ新古皆合す
紀の川の岸ニ見へる所に掘ちしぬきし跡のごとくなりけり故

○聖武天皇塔　長寿寺界内ニあり

柑子袋村　石部驛の東ニあり

○博知大明神社　柑子袋村ニあり

○地蔵堂　同村ニあり極楽寺と号ス

○慈念寺　同村ニあり東本願寺派

○光林寺　同村ニあり西本願寺派

○養林寺　同村ニあり相伝青木民部城地なりと云
按ずるに青木ハ紀伊守なるへし民部とハ家違ひて民部ハ
美濃守殿の人ニて後ニ青木法印と云秀吉公ニ仕し人なり

○菩提寺村　柑子袋村の西ニ当り横田川を隔て川の北ニ
あり相伝古昔金勝山菩提寺と園満山菩提寺と南北
三里程隔て建立後ニ今存在す園満山ハ廃して今ハ村乃
名にのみ存せり

○菩提寺　菩提寺村ニあり始蓮華菴と号し一小
菴なり禅宗黄檗派なり享保九甲辰年今の寺号を
移し旧号の園満山菩提寺と換へ妙蓮華峰菩提
禅寺と号ス妙蓮華峰の額ハ黄檗明院の宸筆なり
此寺地ハ古昔菩提寺の旧地ニあらず古昔ハ阿弥陀寺の

旧蹟なり

○阿弥陀寺の旧蹟　則今の菩提禅寺の地是なり古昔
甲賀郡の四寺と号し金勝山に菩提寺あり当村に菩提寺并
東坂村に阿弥陀寺有南村に阿弥陀寺あり東坂の阿弥陀
寺ハ今もあり南村の阿弥陀寺ハ廃絶せり

○菩提寺の旧蹟　今の菩提寺より三丁計西にあり
今に礎等存せり六間四面の堂礎の礎石なり甲賀四箇
寺の其一として金勝山菩提寺と対隅の寺にて園満山
菩提寺と号し僧に良辨僧正の開基として金勝山
を大菩提寺と称し当寺を小菩提寺と号せしと相傳

去れハ夜叉女も亦霊威を蒙る此旨趣朝廷に奏し
摂政太政大臣良房大納言大伴善男勅使として仁寿
三年癸酉八月十八日造営始り同年十一月十八日山城国松尾
より勧請して宮ハ松尾の松苗を宮と定め松尾の宮と云ふ
宮御採用して平松と号ス則勅使大納言大伴善男
卿の御自玉ふ處なり今美松と云神木あり是此所
より始り生きたりと云此説信用し難し

○美松　平松村にあり神木なりと云

○南西寺　同村に在る平松山南西寺と号ス天台宗
本尊薬師佛

○針村　平松村の東ニ在村なり

○少林山法音寺　針村ニ在　略記曰普国山観音寺九金山報恩寺者聖徳太子之開基聖武天皇御造營中興天龍夢窓国師二世大義禪師也観音寺報恩寺十六坊界内繫兵火為烏有退轉矣伽藍之佛像悉採集而法音寺之界内右二箇寺為一寺焉京北妙心寺派下僧安全偃石首座再興之号少林山法音寺則妙心寺末寺也曰茲以偃名首座為中興開基也本尊十一面観音像聖徳太子御作達摩像倶太子御作聖徳太子十六歳像自所彫刻也云々

往昔此寺繁栄の様本書の絵なる由新古今集ニ載あり
志る人ある時ニ花咲きを極楽の道ニまよへる世の中ハ人
界内ニ十六坊ありしと云今田畑の字ニ残し石塔多の基
石等會塔の基也石等と所々ニあるしと寔ニ今の菩提
寺の地へ引移

○良辨山　今の菩提寺より五町許西ニ在所山なり
良辨僧正の坐禪石あり昔往古菩提寺の旧跡なり屋し
ならん歟此處良辨此開基ともいふ未疑なし良辨の事ハ石山
寺の条下及人物の巻ニ出れ

○八王子社　菩提寺村一村の産土神なり

○川田大明神社　同村に在

○西應寺　同村に在東本願寺末寺なり

正念寺より東本願寺派

○平松村　柑子袋村の東南にあり土俗相傳ふ松尾明神鎮座の地なり藤原頼平所地の地なる由東松尾の松を守と採頼平の平の字を採て平松と號すと云此境傳聞する所にかれ平松乃名を既に久し

○平松大明神社　平松村にあり祭神松尾大明神也祭礼毎年四月未の日なり傳ふ文徳天皇御宇に此平松村に兵衛尉藤原頼平と云者あり山城国松尾大明神を信仰し毎年社に参詣す或時大明神土人の夢に託して此地に鎮座ましますの

門内に不動明王乃石像長五尺七寸弘法大師の作也靈源ありたなり地蔵菩薩の像長六尺五寸行基の作聖武天皇寄進し給ふ處なりと云

○西光寺　同村に在浄土宗金勝寺阿弥陀寺の末寺也

○西教寺　同村に在一向宗京佛光寺の末寺なり

○敬應寺　同村に在一向宗東本願寺の末派なり

○飯道大明神社　同村に在祭礼四月二の午日祭神未詳盛鳥等なり土俗相傳ふ釋安覺普國山飯道寺に住せしか後山居の志ありて飯道寺を移して此村村の飯道大明神安覺と云者同所に供養せしむ事あり

夫より安覚と入れ貴ひしむる此神仏を相道と謂ふなる
五ヶ村の仏道大明神と名付し吉水の社と云ふ座候ひ
座と申す所光明の寺号と云ふ仏道寺大権現と名づける
奉るといふ

○天神社

○二宮権現社　倶に同村に在 諸社の年紀未詳

○夏見村　山夏見里夏見あり東にあるを山夏見
と号し北にあるを里夏見と号す 夏見は此の名より
順和名抄に出たり今は其疆域詳ならず

○金光山光明寺旧蹟　山夏見村に在 今は其地を弥勒堂
と号し相伝ふ往古金光山光明寺と号し本尊は弥勒仏也
塔中に盛福寺極楽寺としてあり元亀の比とは弥勒
堂として其形ちも残りありしに元亀年中炎上し
今は其跡を弥勒堂とのみ号して堂一宇あれし此奥
なる之を遺址とあり此光明寺は比叡山附属の寺
なりしと云

○菅堂　同村に在 福寿山釈迦寺と号し仏殿に
附属の寺なり天満天神をも安置して祠あれは菅堂と号
するにや詳ならず

○夏見大明神社　同村に在 正一位夏見大明神と号す

祭神詳ならず

○了如寺　同村にあり禅宗

了音寺アリ浄土宗

○正福寺村　是又村針村の北に在村なり

○正福寺　正福寺村にあり大乗山正福寺と号す人皇四十五代聖武天皇の御宇良辨僧正の開基にして一巨伽藍の霊場なり塔中清寿寺金剛寺永宝寺等ありし本尊大日如来金粛菩薩の作なり天慶兵火よ繁昌し悉烏有となる人皇百十代承應の比舜譽上人絶たるを興し廃せるとはかりに一宇の草堂を建て易行念仏の道場としけり今の正福寺是也

永巌寺アリ

○常福寺　同村にあり雲乗山常福寺と号す本尊弥勒仏土俗の林寺といふもの是なり

○岩根村　正福寺村の東南にあり善水寺の旧記には岩根の江とも云ありと岩根乃中に四ヶ村あり所謂東村西村内田村花園村なり総高千二百石計の地民家三百軒斗あり名寺に東寺の御寺あるを世の人称来るとや称也云てよし花宮を雲の霧まにハ此花園地に移せる為なり　山城名勝志曰建武丁丑比丘尼聖宗喜捨江州岩根浅国両庄永充佛国禅師供養之用云々　武部大輔資業か附

祭神詳ならず

○了如寺　同村にあり禅宗

了音寺あり　浄土宗

○正福寺村　夏見村針村の北にある村なり

○正福寺　正福寺村にあり大乗山正福寺と号す人皇四十五代聖武天皇の御宇良弁僧正の開基にして七堂伽藍の霊場なり塔中清寿寺金剛寺永宝寺等ありて本尊大日如来金粛菩薩の作なり其後兵火に焚亡し悉烏有となりて人皇百十代承応の比舜誉上人絶たるを興し廃せるをはかりて一宇の草堂を建て易行念仏の道場とす今の正福寺是也

○常福寺　同村にあり雲乗山常福寺と号す本尊弥勒仏土俗の林寺といへるは是なり

○岩根村　正福寺村の東南にあり善行寺の旧記には岩根のことを記せり岩根乃中に四ヶ村あり所謂東村西村内田村花園村なり総高千三百石計の地民家三百軒計あり名主は東宮の所寺あるも其のうち花園あるとや古へは花宮是其の霊ありとかは此花園地翔せる所なり　山城名勝志曰建武丁丑比丘尼聖宗喜捨江州岩根浅国両庄永充仏国禅師供養之用云々　武部大輔資業なり

歌奉りし時よみける下岩根の松の萬世まてと
家集　　家隆
咲出る岩根の花の陰に春そ暮れぬとしる人もなし
寛治元年大嘗會の歌　　匡房
岩根山千世をかさぬる苔衣ゆくすゑ遠く君そ着るへき
良玉集より永保元年大嘗會歌　大武安政
冬されは常にも色かへぬ岩根の山の松のみそみる
○善水寺　　岩根にあり岩根山善水寺醫王院と號す
元明天皇の御宇和銅年中の草創也家結護の道場
其余和銅年中に草創し開基ハ行人と云事を知れ

延暦年中傳教大師當山に居住ありけるに桓武天皇
御悩あり大師則医王善逝の法を修し香水を献せ
しに御悩忽平愈有叡感の餘り比叡山草創の時
當寺をもつて比叡最初の別院となし玉ふ勅して
善水寺と名を賜ふ爾来世々の勅願所鎌倉頼朝卿
以来代々将軍家の祈願所也元亀二年信長の兵
火にかゝつて烏有となる本堂ハ幸にまぬかれたり其
後ハ山麓の農民是を守り或ハ法宗の僧徒寓居
し天和年中より東叡山の末寺と成り日光御門主の
御末寺となれり除地高廿六石余境内二百五十一坪余

百二十間地方一町八反八畝七歩本尊薬師如来伝教大師
の作本堂ハ延文五年庚子二月炎上貞治五年丙午五月
建立され今の本堂是なり

○大師堂　元三大師の像則大師の自作也此堂ハ正徳
三年癸巳秋建立是ハ古昔大師堂の跡に建處なり

○観音堂　本尊丈六の正観音慈覚大師の作なりし
堂ハ元禄九丙子年建立同十五年壬午六月十八日昼夜
常念仏始めむ

○地蔵堂　石像享保五年庚子秋此堂を建

○六所大権現社　所謂天照大神八幡大神白山王
権現熱田明神鹿島明神以上六所なり今の社建立され
此代詳ならず延文五年元亀二年の炎上幸に残る

○八所大権現社　詳ならず

○稲荷明神社　元禄年中に建立歓喜寺の鎮守
なり数丈の大石あり石上に古松樹あり樹下に此小社立

○仁王門　仁王像ハ伝教大師の作也

○鐘楼　是ハ古昔の鐘楼跡なり寛文年中
東照法師鐘を鋳楼を建東照師ハ久我家の人なり
当寺に隠居せられしなり

○岩根山　或ハ石根山とも作る

家集

行末をもるゝ千代しる君か代を岩根乃山の峰の岩雲

○百傳池

こゝにその池を訓を吾水寺にあてれ
東よりるる岩根の池とちる下是なり

万葉集第三

百傳ふ岩根の池になく鴨をけふのみ見てや雲かくれ級

堀川次郎百首　　右近

浪こゆる人もあらしれそのまゝに岩根の池はなし出来ぬ

夫木集

色もなくさけるも白見ん百傳の岩根の池は山吹の花

草菴集

かはらしと岩根の池にすむ水の深きにも清きをしらなん

○思川　　岩根山麓東より西へ流れて川となる

思川と云源は山溪の隅水松尾村の辺より流れて川となり
下流しては岩根を通り横田川に入土俗或云源もなし
下流を那しまゐらす此寺ありと云ものある人いへるは
石かゝる岩根の前乃思川かくよそに見る川下はなし

或云

近江のある人松尾の思川水上となし川下と那し
此寺代々の撰集にも見えたる土俗伝へて一方のことを書

の岩門と欽仙の祠ある処いまだ志らず

○不動寺　岩根東村にあり清涼山不動寺と号す
本尊不動石像本尊の左に脇士の絵あり建武元年二月
吉ト部右近御入道玄之乗足を作ル脇士伝教大師の作
と云ふものハ大の非なり今ハ黄檗山萬福寺同松院の末寺
なり往古ハ善水寺の寺中なりといへり此寺ハ善水寺の
境内江続ク凡二三町東北にあたれり

○常永寺　同村にあり亀山常永寺と号す浄土宗
安土浄厳院の末寺なり開基寺号詳ならず門内に地蔵の
小堂弁天の小社あり是ハ元禄十五年壬午年建立なり

○貴船大明神社　東村民家より南にあり社地を二十歩と
号す本社左右の脇に天照大神宮山王権現社并駒天
社等あり延暦元年壬戌年造立

○別所社　東村民家より北にあり山林の中にある
なり祭神詳ならず

○諏訪大明神社　同所にあり

○牛頭天皇社　森村民家より東の方山林の中にあり
本社宝亀元庚戌の三し此地に鎮座なりと云ふ天文
十三甲辰社造立す

○正栄寺　岩根西村にあり岩根山正栄寺　宝松院

と号す文明年中竟誉上人の開基浄土宗安土浄厳院
の末寺なり門内に観音の小堂あり宝永年中の造立と
門外に弁財天社有延宝年中建立なり

○高倉大明神社

○白鳥大明神社　二社倶に西村民家より四五町西に
あり二社ならひ立建武甲戌の年二社造立

○長福寺　岩根内田村民家の北にあり内田山長福
寺と号す花園村正法寺の末寺なり本尊毘沙門天
今纔に一小堂のミあるのミ

○正法寺　岩根花園村にあり佛寿山正法寺と号す
本尊阿弥陀恵心の作なり造立の年紀詳ならす浄土宗
羽田村光明寺の末寺なり

○花薗寺　岩根花薗村にあり本尊釈迦如来禅宗
石崎山尾屋寺の末寺なり福生山花薗寺と号す
古傳往古ハ花薗村北に高山あり此山に古釈迦堂并
（和儛ニ此閑ニアリ）
坊舎十二院あり茲に因て今に山を十二坊山といふ
文安五戊辰の年堂舎ともに今の地に移して後滅亡す
往古ハ岩水寺の別院なり延宝年中尾屋寺中興
香山和尚中興として此寺禅宗なる

○牛頭天王社　同村民家の北にあり鎮守未詳

と号せし文明年中　竟誉上人の開基浄土宗安土浄厳院
の末寺なり門内に観音の小堂あり宝永年中の造立とし
門外に弁財天社有延宝年中建立なり

○高倉大明神社

○白鳥大明神社　二社倶に西村民家より四五町西に
あり二社ともに建武甲戌の年二社造立

○長福寺　岩根内田村民家の北にあり内田山長福
寺と号せし花園村正法寺の末寺なり本尊毘沙門天
今纔に一小堂のみあるのみ

○正法寺　岩根花園村にあり佛寺山正法寺と号せし

本尊阿弥陀恵心の作なり造立の年紀詳ならず浄土宗
羽田村光明寺の末寺なり

○花薗寺　岩根花薗村にあり本尊釈迦如来禅宗
石崎山尾屋寺の末寺なり福生山花薗寺と号せし
相伝往古は花薗村北に高山あり此山に甘釈迦堂并
坊舎十二院ありし故に因て今に山を十二坊山といふ
文安五戊辰の年堂舎とも今の地に移して後滅亡せし
往古は石水寺の別院なり延宝年中尾屋寺中興
香山和尚中興として此寺をも禅宗なり

○牛頭天王社　同村民家の北にあり詳ならず

○三雲荘　吉永村三雲村妙感寺村と云
○吉永村　夏見村の東南にある村なり
○南勝寺　吉永村にあり長谷山南勝寺と号す
禅宗京都妙心寺の末寺なり本尊十一面観音春日の
作なり良辨僧正の開基なり後来宗旨論ありて正保寛文
天和貞享知春宗仁自閑居職し相續して禅宗となる
○正一位吉永大明神社　同所にあり祭神四座吉永大明
神牛頭天王稲荷大明神飯道権現也
○古城址　吉永村の山にあり三雲氏の古城也三雲
氏は関東上杉家の餘流小山田源内左衛門行定永正の
比江州へ来り庄の典膳の聟養子となる三雲の庄を領し
三雲氏と称し行定の子三雲對馬守定持其子を新左
衛門賢持と云佐々木義頼に仕ふ此山の眺望甚佳景
なり古傳水口岡山へ此城を引と云
○三雲村　吉永村の東南にあり
○永照院　三雲山永照院と号す浄土宗安土浄厳
院の末寺なり古傳聖武天皇の御宇行基の開基也
中興頼誉珍阿和尚大檀那三雲典膳家臣三雲修理也
○龍樹大明神　同所にあり祭神詳ならず
○上乗寺　同惜村にあり観音山上乗寺と号す

禅宗洛北妙心寺の末寺也五十年以前木食廻道和尚の
開基なり號ハ三雲山と号す
○天照大神宮　則観音山の中にある小社なり古昔の
日雲の宮なり西し　大和姫世紀曰活目五十狭茅天
皇垂仁四年乙未遷淡海甲賀日雲宮四年奉齋云々
是ハ上古ハ神鏡禁裏にありし時ハしく天皇と床を同し
くしたまふ崇神天皇の御時に神威を畏れさせ給ふ
皇女豊鍬入姫命をして齋奉らしめ給ふ太神の
御都をうつされ由て處々に大宮所をかへ給ふ此日雲の宮
も其一所也日雲を今ハ三雲と云音の訛能せるなり

○妙感寺村　吉永三雲村等の西南にある村なり
○妙義大権現　妙感寺村にある祭神詳ならされと妙義
大権現ハ上野碓氷郡にある今按するに庄兵勝と云先祖ハ
上野なり小山田行定と本国上野なり父子の内ある
件の上野より妙義を勧請せしにもあるにや
○妙感寺　同村にある雲照山妙感寺と号す本寺
観世音永平三世禅宗後天竜寺派と云今ハ洛北
妙心寺の末寺なり萬里小路藤房卿の開基なり
且按するに藤房卿ハ後醍醐天皇の寵臣なり万里
小路宣房の子なり天皇沈湎して度々あらし帰人乃

言に従ル政化日に弛功臣封を得ずして上をうらむも
のこれ多く天下の乱近きにあり藤房しばしば
諫て用ひられず一日楠正成に会して云艶妻方熾
にして四聡塵杜そ是をせんすべを知れ一歳の云
臣か如きハ溝経に甘心せんのミ藤房云桂（桂カ）流の水を
濯ぐへしと岩嶺の雲骨を埋むへしと得ずに滑て別を
建武二年三月十九日冠を掛て遁世しぬ大
平記曰藤房供一人召具して北山の岩蔵と云処
へ趣しまさる宮にて不二房と云僧を戒師に
請して遂に多年有趣の儒冠を抛て十戒

持律の法師となられけるとぞ遁世以後の事諸説紛紜
たり禅林諸祖伝に京都妙心寺の第二世授翁宗弼ハ藤
房の事なりと書しハ一向の虚伝也説なり水戸源義公
の御撰大日本史の藤房の本伝及吉野拾遺等に後村
上天皇吉野にて御座ありし時枚堂成信の書を洞院左衛門督
実世卿に贈りてありけるに一首の歌あり実世藤房の手跡なり
なりと言上ありし帝諸方の関吏に詔して物色しもとめ
おりしも後畑六郎左衛門時能越前鷹巣山にて一人の
僧に逢ひ能藤房の顔面に似たりとて以て新田義助
少将藤原行房と得るに鷹巣山に入て求むれとも見えて

石塔に一首の歌あり行実孫房の手蹟なる事を知らず
遍く尋ぬれどもみえざりし義助後吉野にて身まかると言ひしを
執りもちたる事は太平記に孫房遁世の後に伊予山にて
芳し給ひと行脚して土佐より行くに風波の難に逢ひ船覆
り溺死すと記せり此説正当なるべし土佐より孫房
都を退て丹波に隠れ給ひしに畑六郎尋ねまゐりしが
後あれし跡を尋ぬる人とへば荒や庭の手向なるらへん
と志るし在りし越前へかくれ玉ふ畑六郎又尋ね参りしが
古きも又浮世の人に問ふよしもなく山にかくしやなりけん
こ聞し在りし此雲に行ふにみ尋ね給へしかば

世のうきことも何ならず雲の雲間の思ひやるや山住の友
とよみ玉ひし書捨しを人に隠すとて詠まれし立しに一附の
石塔にしるし人に知らしむる孫房遺愛の四株の桜も
志るし残れりと云 此説岩倉田にかへし佐々木家
記に曰江州東の郡に雲岩山南の奥に一村あり中に
妙感寺あり吉田兼氏文明年中に妙感寺にて死去を
中村書に前に居住せしと云へし

近江國輿地志略巻之五十一

臣 寒川辰清編輯

甲賀郡第二

○朝国村

三雲吉永村の東北にあり岩根より南東にあたる中関川より山城名勝ある一里半山真如禅寺開山佛光無学禅師の碑に銘す　建武丁丑比丘尼聖宗喜捨江州岩根淺国之両荘永充佛国禅師供養之用云々

○観音寺

朝国村にあり朝國山観音寺と号す本尊十一面千手観音弘法大師の作北条時頼の開基也

○時頼の小塔　観音寺ニ在観音寺時村の開基
なりと云ニ此塔を時頼しいふ

○廣野山　朝宮下山両村の間ニ在地蔵の石像
一躰あり松一本在土俗是を地蔵ヶ松と云此山朝宮山の
山形ニ相隣り方六町許高さ十丈許南の方ハ
山下ハ横田川なり古今ニ横田山と読るハ是也
又云人の哥ニ横田山縁のはや陰ニ有なり

○檜尾影の岩　広野と山ニ在岩あり是を云ホ下ニ
かゝる岩を汁岩と云

○柏木莊　相傳往古ハ柏木村大宝寺村清水村
之て三村をもつ東街道の順路出しニ慶長年中街道
変り西の方北柏木村大宝寺村の二村ハ小脇村と合して
一村となり清水村ハ植村と合し一村となる夫故北脇
村あ本村とれて之ハ柏木荘十六村ハ柏木小脇林口宇
田植村酒人清水大原寺泉上山中山下山松尾名坂
畑八ツ田也今ハ清水大宝寺柏木の三村なり十三
村ハ以出て是より下田堂村等を加へて柏木荘と云
東鑑ニ治承四年十二月一日乙卯左兵衛督知盛
卿卒数千官兵下ニ向近江国与ニ源氏山本前兵衛尉
義経其弟柏木冠者義兼等ニ合戦義経以下弃身忘

命雖ニ挑戦知盛卿以ニ多勢之斗放火焼迫彼等舘并
郎従宅之間義経義無失ニ度逃亡云々 則柏木冠者
是柏木の荘を領せし人なれハ彼館も此辺にある
べけれとも今ハ詳ならず

○下田村　岩根の東にある村なり

○慶圓寺　下田村にあり一向宗西本願寺の末寺也

○八田村　下田村の東に続く村なり

○下山村　朝国村の東また八田村の西南に接す

以下二ヶ寺ハ上山村中にあり

○十善神社　下山村にあり祭神詳ならす

下山村ニ九品寺浄土宗 瑞岩寺禅宗アリ

○西養寺　同村にあり浄土宗安土浄厳院の末寺なり

○法念寺　同村にあり一向宗蒲生郡内池村宗照寺の
末寺なり

照光寺カ 花木山

○中山村　下山村の東北にあり古俗或ハ中山村畑村
をさして伴の谷ともいへり

○三十八明神社　中山村にあり何れの神しを祭るにや未詳

○智善院　同村にあり天台宗比叡山の末寺 則三十八社
の社僧なり

○松福寺　同村にあり浄土宗安土浄厳院の末寺なり

○西光寺　同村にあり

○良徳寺　同村にあり

命雖ニ挑戦ニ知盛卿以ニ多勢之ニ斗放ニ火焼ニ迫彼等舘并
郎従宅之間義経義兼失ニ度逃亡云々　則柏木冠者
と云は柏木の荘を領せし人なれハ彼館も此処にある
由ありしかと今ハ詳ならす

○下田村　岩根の東にある村なり

○慶園寺　下田村にあり一向宗西本願寺の末寺也

○八田村　下田村の東にある村なり

○下山村　朝国村の東にて八田村の西南にあたる村なり

○十善神社　下山村にあり祭る神詳ならす

［貼紙：下山村ニ九品寺 浄土宗 瑞岩寺 禅宗 アリ］

○西養寺　同村にあり浄土宗安土浄厳院の末寺なり

○法念寺　同村にあり一向宗蒲生郡内池村同宗照光寺の末寺なり

［貼紙：照光寺カ　花木山］

○中山村　下山村の東北にあり古俗或ハ中山村畑村をさして伴の谷ともいへり

○三十八明神社　中山村にあり何れの神を祭るにや未詳

○智善院　同村にあり天台宗比叡山の末寺 則三十八社の社僧なり

○招福寺　同村にあり浄土宗安土浄厳院の末寺なり

○西光寺　同村にあり

○良徳寺　同村にあり

命雖ニ挑戦知盛卿以ニ多勢之斗ニ放火燒ニ迫彼等舘并
郎従宅之間義経義兼失度逃亡云々 則柏木冠者
ハ近江柏木の荘を領せし人なれハ彼舘も此邊にあり
要害なりしか 今ハ詳ならす

○下田村 岩根の東にあり 村なり

○慶圓寺 下田村にあり一向宗西本願寺の末寺也

○八田村 下田村の東にあり 村なり

○下山村 朝国村の東にて八田村の西南にあり

○十善神社 下山村にあり 祭る神詳ならす

○西養寺 同村にあり浄土宗安土浄巌院の末寺なり

○法念寺 同村にあり一向宗蒲生郡内池村宗照寺の
末寺なり

○中山村 下山村の東北にあり土俗或ハ中山村畑村
ともいひて伴の谷ともいへり

○三十八明神社 中山村にあり何の神を祭るにや未詳

○智善院 同村にあり天台宗比叡山の末寺 則三十八社
の社僧なり

○松福寺 同村にあり浄土宗安土浄巌院の末寺なり

○西光寺 同村にあり

○良徳寺 同村にあり

○東光寺　同村にあり

○畑村　中山村の東北にあり

○天狗堂　畑村にあり

○山王社　同村に在二社あり西山王東山王と云ふ
祭神日吉の神なり

○渓蓮寺　同村に在浄土宗安土浄厳院の末寺なり

○若王寺　同村に在同宗谷渓芝の末寺なり

○上山村　畑村の東南にある村なり

○牛頭天王社　上山村にあり

○玉台寺　同村に在禅宗黄檗山万福寺の末寺なり

○善忠寺　同村に在浄土宗安土浄厳院の末寺なりと

○堂村

菅神ニハアラサルヘシ

○天神社　堂村に在祭神菅丞相の霊也鎮座の年紀詳ならず社壇に一尺許の円石あり参詣男女祈願の吉凶を占わんと欲して祢宜に此事を乞へば祢宜神前にて祝言を高く唱ふ吉なる時は軽くあがり凶なる時は盤石のごとく重し是等特いちじるし近江の男女参詣甚多し境内に観音堂在観音作未詳

○蓮華寺　同村に在浄土宗安土浄厳院末寺なり

○松尾村　上山村の南にあり

○東光寺　同村にあり

○畑村　中山村の東北にあり

○天狗堂　畑村にあり

○山王社　同村に在二社あり西山王東山王と号し祭神日吉の神なり

○溪蓮寺　同村に在浄土宗安土浄厳院の末寺なり

○若王寺　同村に在同宗谷溪蓮寺の末寺なり

○上山村　畑村の東南にある村なり

○牛頭天王社　上山村にあり

○玉臺寺　同村に在禅宗黄檗山萬福寺の末寺なり

○善忠寺　同村に在浄土宗安土浄厳院の末寺なりと

○堂村

○天神社　堂村に在祭神菅丞相の霊也鎮座の年紀詳ならす社壇に一尺許の円石あり参詣男女祈願の吉凶を占んと欲して祢宜に此事を乞へハ祢宜神前にて先言を高く唱ふ吉なる時ハ軽くあかり凶なる時ハ盤石のことくに重して其手特いたくなりし近世の男女参詣甚多し境内に観音堂在観音作未詳

○慈幸寺　同村に在浄土宗安土浄厳院末寺なり

○松尾村　上山村の南にあり

○八幡太神社　松尾村にあり
○五郎王神社　同村に在り是を王の神社と云五郎王ことを
土俗の所称なり王の八将神を素盞烏の子五男三女と表
せる也然るハ五男を合せ祭れることそれの詳ならす
○頼隆寺　同村に在り松尾山頼隆寺と号す天台宗
本尊薬師如来伝教大師の作同大師の開基なり元亀
の兵火に罹て寺院忽烏有となる其後再興して一宇
今僅に本堂鐘楼堂観音堂あり比叡山延暦寺の
末寺なり本堂に額あり享保十二乙年輪王寺宮頼
隆寺の三字を染筆し給ふ

○松尾川　源二ッ一ハ畑川の下流鮮に岩根畑川の際
下に落合一を伊勢国荊野山に出西へ流れ北に轉し
又西に折大河原の坤を遠く流れ曲折して前田村
の東を通り田村川と合し水口駅及宇田村の南を經て
横田川と並一ハ伊勢国於岐流山の間より出西へ流れ
鮎川村を經て一流となれり
○名坂村　松尾村の南にあり
○大池寺　名坂村に在り禅宗京妙心寺の末寺なり
竜護山大池寺と号す本尊釈迦如来行基の作也寺は
もと行基の開基にて中興妙心寺派丈巌和尚なり

○林口村　上坂村の東西にあり
○天照太神宮　林口村にあり
○西方寺　同村にあり浄土宗安土浄厳院の末寺なり
○北脇村　林口村の北西にある村なり
○若宮八幡宮　小脇村にあり伝云大将源頼朝卿勧請し給ふ處なり祭礼四月二日中の日八月十五日也近村九村の産土神なり界内に山あり社なり社家柏木氏の記に曰
當社八幡宮ハ源頼朝上洛の時此山上の社地に鶴の多く此八幡宮を勧請しあり神田七十五町を寄附せられし後ハ以来中世鹿子井家柏木の庄を領しられ社領絶す衰へして山中黨伴の黨の士なり湯阿弥なり織田信長神田を奪ひてより衰へ慶長年中長束大蔵水口岡山の城を築きし時合戦ありて社殿も兵火にかゝりて今に鎮守となる形のみ残れり
○十善神社　同村にあり
○天神社　同村にあり
○神護寺　同村にあり真言宗河辺護国寺の末寺なり
○浄福寺　同村にあり浄土宗安土浄厳院の末寺なり
○永正寺　同村にあり浄土宗水口大徳寺の末寺なり
○本行寺　同村にあり日蓮宗京立本寺の末寺なり

○飛鳥井殿寓居遺址　北脇村にあり古傳文明年中飛
鳥井雅康柏木村に居住し給ふ事あり此を村にて飛鳥
井家の西所まて此地所は今は後柏木村と小佐治村の中に
入て今は柏木村といふ名所し其中へ在所の飛鳥井家の
西所なと今は柏木の荘と云今当村に柏木大宝寺なと号
せる地あり是雅康居住の遺址也馬場の跡なと号せる
處いまは田畑の名と成八幡宮の社人柏木氏乃ちこれ無年
貢飛鳥井家へ年始の禮を勤むる由古雅康に柏木乃
名字を給ふといへり雅康卿雅親入道栄雅の養子なり
実は弟なり二楽軒と号せし臣按するに重編應仁記曰

文明二年庚寅冬十二月廿七日後花園院崩御ありし比飛鳥
井大納言藤原雅康卿江州柏木といふ處に閑居し給ひ
ましけるか此由を承りて殊に悲しみ給ひて御追善にと
歌よみてよみ給ひし歌あり
主上之御君なと此とし秋の花の下にて書ふとある
同書曰東山殿の御臺所大乗院伊勢へ御下向あり文明
十一年の比飛鳥井雅康入道二楽軒も洛陽の乱を避
世て江州甲賀郡柏木の里に閑居し給ひ花を吟し
月に嘯きて世をなかめつゝ居ましけるか或山荘へ書信
をかはされけるに臣隣に旅宿ありて二三年所在とありし

世をいのる君か心の清けれは内外の神もまもらさらめや

御製所　御返し

世を祈る心を神のしるならは此世と此世ともにまもらん

○鶯塚　同村にあり　古伝に鶯寺雅康卿秘蔵し
玉ひし鶯死して埋みしにはくことよって田島の中に小き塚
二あり其中間二十間許隔てあり

○宇田村　小根村の南に在村なり

○延命神社　宇田村にあり

○八幡社　同村にあり

○唯称寺　同村にあり　浄土宗安土浄厳院の末寺

○極楽寺　同村にあり今は無し

○植村　宇田村の北西に在村なり

○酒人村（サカヒト）　植村の東にあり

○圓養寺　酒人村にあり　天台宗比叡山延暦寺の末
寺なり本尊観音　甲賀六順礼の札所也

○持宝寺　同村にあり　天台宗山栗東郡之入村西照寺の
末寺なり

○泉村　酒人村の北にあり　扶桑拾葉集　烏丸光
広卿東行の記に白泉といふ所にて
夏比旅のゆくてに見る記恨もりける泉といふ所の清水なかれて

○八幡神社　泉村ニ在

○泉福寺　同村ニ在泉福寺延命院と号ス天台宗
比叡山延暦寺の末寺なり本尊地蔵菩薩長二尺六寸
座像定朝の作脇士不動毘沙門長二尺ツヽ運慶作なり

○浄土寺　同村ニ在浄土宗安土浄厳院の末寺なり

○岩坂村　宇山村の北横田川の南ニ在村なり

○横田川　湖ニて横田川ト作ル源二一ハ伊賀国柘植山
の間ニ出て五反田村稲田村の東を経て稲田村の西ニ至テ一ハ
伊勢国鈴鹿山間ニ出て櫟野村の南を経て田堵野村の
北ニ至テ二流一と成一ハ神山大岸山の間ニ出て西ニ流れ
大久保東南隅の北を経て野尻ニ至て一流と成北ニ轉し
て横田川と成る一ハ田村川松尾川の末流ニて酒河原村の
北ニ至て合して一流と成り東ニ北ニ流山上川と合し
土入村の東ニ至て分て二流と成る此川南ニ杣川ニて合
東山川と云ハ北ニ在て小野川と云南ハ横田川の末なり
光廣卿東路記ニ云横田川を渡り云々
名を杣とも記ニ成れる世ニも横田川流ニ濁ニて足ハ
順ヶ和名抄ニ出たり

○山直郷　上居道ゟ山尾の辺を云山直ハ谷の名を

○倉田荘

○水口驛　林口村の東にあり　名美濃部村と云今ハ
水口町とのミ云り東海道の驛次なり江家次第ニ卿勅
使進發の條下ニ　到甲賀驛宿国司供給なとあるハ
此驛の事也　一條禪閤兼良公京都の亂を避て此に
退去ありし時こゝを過て作られし詩ニ

憶得三生石上縁一菴風雨夜無眠
今朝更下山前路老樹雲深哭杜鵑

林春齋詩

甲賀都中途不窮郵程日々向西風
今田地子何沉陸水口行船朱晦翁

垂加翁詩

甲賀郡中水口邊日雲秋晩意茫然
寥々宿称千年迹行客空思神誨傳

○天満天神社　水口町内にあり往昔菅相公筑紫へ
左遷の後ニ公達自皇都の御居出ありし所にて離散し
玉ふ淳茂公此地に来りて美濃部村に居住し其後
歸洛の日一子を此地に殘し玉ふ今の美濃部氏の祖
是也天慶年中菅公の木像を彫刻し此地に祭
玉ふ今の天神社是なりといふ　神主石王中務か神田君
記によつて祭礼毎年六月廿五

○水口城　往古より城ありしにや此地に在りし岡山
の古城と号せる處は古地也當地は寛永十一甲戌年
小堀遠江守として新に建し給ふ山岡に對ありしかしく
ありて後あり天和二年加藤内藏介明友と此地に封
し給ふ明友石見國吉永より爰に移て初て水口の
城と号し明友を城主の列に加へ給ふ明友は加藤
左馬介嘉明が嫡孫也明友の子を越中守明英と云ふ
元禄八年五月封を下野の壬生に移れ鳥居伊賀
守忠救と此地に封し給ふ正徳二年鳥居氏を以て
下野の壬生に移し加藤和泉守嘉矩と爰に復封

し給ふ嘉矩は明英の子也今末加藤氏相續して爰に居給ふ

○岡山古城址　今水口城の東十町許に在て古昔の水口
城なり西の麓より本丸に至つて四町許是を追手といふ
東の麓より本丸に至りて二町五十一間是を搦手と云此本
麓に至て二町廿一間也山頂の本丸方十三間二の丸三千
二間中に廿三間西の丸廿四間に廿三間三の丸二千五間に千
七間惣廻り廿七町二千間に今其形あり今は當城と乃
山林と成しを此地鈴鹿山の西横田川の東要害の地也
天正十三乙酉の年中村式部少輔一氏城を築く天正十八
寅の年駿河國田中の城へ移る増田右衛門尉長盛爰に

其城にて文禄四年乙未大和国郡山へ移る長束大蔵少輔
正家其城にて関ヶ原の役正家民屋の男女老少を捕ひて
質として城内に置正家美濃に趣き弟伊賀守をして守
らしむ関ヶ原の軍敗て正家逃還りて池田備中ら会
して圍之既にして和睦し則彼質を放し城を開く
池田に授く池田台命に依て城を破せり

○水口御殿跡　水口町南の方二町四方斗の地あり
是なり四方に堀あり慶長九辰年東福門院御旅殿
の為に御代官林伊右衛門建之今は其跡のみ存て
古御殿とのみ云へり

○大宮大明神社　水口にあり所祭神五座所謂大
巳貴命素盞烏尊稲田姫武甕槌命経津主命也延
喜式神名帳所載水口神社是也祭礼毎年四月二の
申日神主ハ在出雲守

○大岡寺　同郡山の麓に在並王山大岡寺観音院
と号す白鳳年中の開創行基の開基也本尊十一面観音
長三尺余則行基の作也本願甲賀三郎兼家也本尊
なりと往古岡山にありて坊舎六院繁昌の霊地なりしに
天正年中中村式部少輔一氏初て城を岡山に築くに依り
寺院を水口の際中に移して然後享保元年又寺院成

田地にありし移を今の大園寺是也天台宗比叡山延暦寺
の末寺なり俗に甲賀の観音とといふものハ古城山の北
麓にあるをいふなり
羅山文集曰余一見縁起甚鄙俚不足云焉曰昔甲
賀三郎兼家與兄太郎次郎共遊衆山兼家入高懸
山窟射殺鬼輪王時太郎次郎陥穴掩兼家化為蛇
其窟通信州水葱松原焉妻子大悲立此堂吊之経
三十年出自杢原乃帰不知已為蛇躯而問故家家
人甚恐不敢近也見者皆驚走兼家甚愧憂之夜入
寺蟠堂板之下以観音力故脱復本身漸得帰家妻
子一惟一驚紛而甚悦且悲且泣握手共為夫婦父
子如故於是太郎次郎聞之懼遂自殺三郎果為甲
賀郡之主嗚呼観音何為者哉彼徒之欺誑民俗者
至于此耶咄哉叱哉云々　臣按るに甲賀ハ兼家か
事載て伊賀志にあり甚似たる事也詳に人物門
に出んか又怪異の事ハあらん百錬抄に天仁
二年二月十六日三男義明の事によつて義綱発憤
今夜東国に赴く公家追討使として廿五日為義近
江国甲賀郡において義綱を尋得たり義綱大にをそれ
ねかひて出家せしと載たり　此事ハ其の事なるへしと信

伝云日野の長明発心して薙髪せし地なりと云り長明
の海道記に墨染の庵を訪らし紀旅なれし日記を家と云者
なりしおしえ云ハ當寺にありし發心の時の事なりと其
大圓寺の額ハ享保九年林丘寺元瑤の宮の御筆なり

○諏訪大明神社　大恩寺の東門に在大恩寺の鎮守なりと云

○八幡社

○神明社

○牛頭天王社

○大臣社　若水口の宮称と登するや

○秋葉社

○辨財天社

○稲荷社　倶に悉く水口に在

○大徳寺　水口に在浄土宗京知恩院の末寺なり
開基詳ならず往古ハ禪宗なりと云寺領廿九石
寺元和年中の御朱印也此時代の住僧三河国より来
東照神君の幼年の時書法を教へ奉りし人なりとて
此時寺領を寄附ありしと云三河国法蔵寺の住僧後に
此寺住をとし来りし神祖幼年の時書を学れ玉ひし
三河国法蔵寺の住僧なり

○心光寺　同所に在浄土宗京知恩院の末寺なり

○真行寺　同所ニ在リ大徳寺の末寺なり
○真福寺　同所ニ在　真言　末寺なし
○西明寺　同所ニ在　真言　末寺なり
○松元寺　同所ニ在　真言末寺なし
○極楽寺　同所ニ在　浄土宗　同所西光寺の末寺なり
○圓福寺　同所ニ在　浄土宗　紀伊総持寺の末寺なり
○蓮花寺　同所ニ在　一向宗　伊勢国一身田ニ高田院の末寺也
○西蓮寺　同所ニ在　浄土宗　安土浄厳院の末寺なり
○本正寺　同所ニ在　日蓮宗　京　立本寺の末寺なり
○慶圓寺　同所ニ在　一向宗　京東本願寺の末寺なり

○松ヶ荘
三大寺六村矢川七村新出九村池田村
高山村市原村野田村六牧村(ムマキ)馬杉村(マスキ)高峰村稲田村と
いふ或伝伝教大師延暦寺を草創せんと欲し此地を
村とさため松ヶ荘と号すと云
○三大寺六村
三大寺村牛飼村山上村松中村内田村
宇治河原村といふ六村をいひ之より内田村は西東分の六村也
○三大寺村
或伝此村は古昔三箇の大寺在所にて以
名とすと云所謂三大寺は道往寺薬王寺飯道寺是なり今
其跡未詳
○三大寺大明神社　三大寺村にあり　祭神未詳　社僧

あり龍王山三大寺和光院と号し比叡山惣持房の末寺
なり當社の祭礼毎年四月二の申日なり

○圓光寺　同村にあり浄土宗豊浄慶院の末寺なり

○牛飼村　三大寺村の東南にある村なり

○上宮　牛飼村にあり祭神未詳

○下宮　同所にあり

○栄林寺　同村にあり法蔵山栄林寺と号し水口
心光寺の末寺なり

○立泉寺　同村にあり法華宗京立本寺の末寺なり

○鳳来寺　同村にあり本尊薬師如来

○福泉寺　同村にあり本尊観世音

○地蔵堂　同村にあり

○松中村　牛飼村の東南にある村なり

○勝手明神社

○牛頭天王社　倶に松中村にあり

○西往寺　同村にあり浄土宗市辺村西教寺の末寺なり

○福量寺　同所にあり真言宗京泉涌寺雲龍院の末寺なり

○東光寺　同村にあり天台宗比叡山の末寺なり

○山上村　松中村の東南にある村なり

○廣徳寺　山上村にあり瑞應山龍花院廣徳寺と号し

武江天台宗比叡山延暦寺乃末寺にある青面金剛不
動明王尊像伝教大師の作也土佐の所謂甲賀人の庚申
是なり当寺往古は甚繁昌乃地にして坊舎一千坊ありしと
なん今は荒廃の寺となる右寺なと見え多し其略縁記曰
大宝元年正月七日庚申の日申の刻庚申の告ありしより
人多庚申の告を待?知?る金成山廣仙寺ハ桓武帝乃
御宇延暦二年傳教大師建立の霊地也一度破壊して
信心を起さしむ大破せしを再建し久和元年三月日と
記せり事長きを以てと記せり始金成山廣仙寺とし
号し近世陽應山と改号し庚申の本朝に流来せる

事久し垂加流の神道にて庚申待といふ口決ありて是を伝ふ
庚申ハ幸神也幸神ハ猿田彦命なり故にかの元子の日
を用ゆ三猿と云ふ此理なりといへり七種の菓子を供へ
奉りし悪体あり佛法にてハ青面金剛と伝ふ様にかへる
非なり同じ支井澤長秀俗説辯にあらはし庚申代
猿田彦とするハ牽合附会なりと記せり垂加門人跡
部光海翁の説にて井澤長秀の説ハ誤れり神代の庚申
待と知られざるの故にかくの如し云り庚申ハ申の日に猿田彦の
神なりとて光海翁の説も誤なるべし庚申の夜は遊を
いふ事ハ朱雀院の天慶二年八月廿二日より始まりとし

王代一覧に記されたれども此も誤也是より以前菅家
文草の第四に庚申の夜不眠を述といふ詩あり六十二代
村上天皇天暦七年十月十三日内裡にて庚申の御遊ある
と古今著聞集にも記せり或云庚申とハ老子の道也
庚ハ金也申も亦金氣の方也是仙家修養の事より
起るといへり 杭仁和郎記曰庚申甲子事修仙家崇尚
之甲陽木而主生應肝魂也庚陰金而主殺應肺魄
也仙家欲煉氣為純陽而魂魄常存於舍故守之也
且甲子在六旬為始庚申在六旬為終修練家以此
為要曰云云 酉陽雑俎にハ庚申の日三尸人の過を云

七度庚申を守れバ三尸滅すと記し 太平廣記にハ彭ハ三尸
の姓常に人中に居て其罪を伺ひ察すを庚申の日に至て
上帝に籍をなす 仙を学ぶものハその三屍を絶つしといふ太上
感應編にも此事を記し大に同じくおかしき記也 下学
集にハ盗賊此夜利を得る夜也故に諸人眠らずし守
事と也しあり 拾芥抄に庚申経を引くかなり大庚
記の說に似たり 佛祖統紀にハ西王母漢の武帝に教へ
し三尸を解說をし始るより始まると載せり 列仙傳
古今醫統張耶代醉 遵生八牋等にも記しあれども
事同じきを故略しくてみるされ 西宮記清涌 袋草紙

栄花物語大鏡并朝文粋等に庚申の夜とある事と
哉より祖庭事苑に庚申ハ佛経に出る處なけれは
道家より出とあり僧史略に庚申ハ佛にあらす道士
の邪法也と識せり群談採餘及詩學大成詩柳子
厚か文集にも庚申と罵文ありとかくに庚申ハ佛にあらす
まてあれ外より神道にも尊く崇る事なり又諸書に
吉所の庚申堂皆以て攝津国天王寺の事記となる此
也によ縁起に大宝元年庚申に青面金剛天王寺へ
天降り玉ふ是最初なりと旅也といふ臣古暦を以て
考れを推に文武天皇の大宝元年ハ辛丑の年にて庚申

庚申の年にはあらす仏元亨釈書天王寺の條下にも庚申
の事見えす只太子の御手印記にも庚申の事なし御手
印記といふにも本願縁起と名つけ聖徳太子の作書なりと云
つたへり後世の事なるへし

○八幡社　同村にあり

○地蔵院　同村にあり浄土宗安養浄蓮院の末寺なり

○天経寺　同村にあり真言宗

○北内貴村　水口驛の南西にあり

○川田神社　北内貴村にあり所祭春日大明神也といふ
延喜式神名帳に所謂近江国甲賀郡川田神社是なり

○天満天神社　同村ニ在

○養福寺　同村ニ在安土浄厳院の末寺なり

○西内貴村　小内貴村の南西にあり村なるを

○天満天神社　西内貴村にあり

○西福寺　同村ニ在浄土宗安土浄厳院の末寺なり

○東内貴村　西内貴村の北ニ在

○福照寺　東内貴村ニ在天台宗信楽飯道寺の末寺也

○法泉寺　同村ニ在浄土宗安土浄厳院の末寺なり

○宇治河原村　岩阪村の東横田川を隔て在

○天神社　宇治河原村ニある也

○永昌寺　同村ニ在天台宗

○矢川七村

○森尻村　虫生野村の南東ニ在村なり

○矢川大明神社　森尻村ニ在祭神未詳社僧あり

矢川寺清浄院と号す天台宗比叡山延暦寺の末寺也

○天王社　森尻村ニ在祭神未詳

○深川村　森尻村の南東ニ在郷なり

○八幡社　深川村ニあり

○常福寺　同村ニ在天台宗森尻村矢川寺の末寺也

○塩野村　市場村の南ニある村なり

○塩池　塩野村ニ在一間四方許の沼池也自然と
潮の満干あり今ハ此潮を汲取て浴すれハ疾病を愈すと
云へし塩野村と号せる事ハ此塩池在によりて
の名也此塩池を弘法大師此村に塩なきをなけきて
独鈷を以て穿出し玉ひし處なりと云　臣按するに弘法
大師此邑に遍歴の事ハ有へし塩を穿出せる事ハ
いふかし琅耶代酔に冀の河東安邑晋州雲中雁門
に塩池あり霊州に七の塩池華陽に大小の塩池會稽
寧夏ニも大小の塩池ある事を記せり本草綱目
及五雑俎皆塩井塩池ある事を載せたり是等ニ皆

弘法大師の穿出し處なりとや案するに土俗弘法
の奇特を称せんとて却て弘法を恥しむ弘法以下ニ
帰を合乗し當国伊香郡菅並洞壽院山号を塩谷
山と云ニ其山ニ塩池ある故の名也

○天神社　同村ニ在

○諏訪明神社　同村ニ在

○長楽寺　同村ニ在浄土宗水口大徳寺の末寺也

○瀧坂寺　同村ニ在天台宗赤尾村矢川寺の末寺也

○杉谷村　塩野村南にある邨なり

○息障寺　杉谷村ニ在岩應山不動院息障寺

ともいふ比叡山延暦寺の末寺なり本堂乃坤二十六町山頂
に十丈許の大石あり長一丈六尺も不動の像を彫刻して伝
教大師の作也お伝傳教大師叡山を開基せんと欲し此山
に杣取し玉ふ此山に大池在大蛇棲て人を悩す大師哀
り給ひて秘密の法を修行し玉へハ竜蛇と化去失ぬ
それより杣取して材木を多く伐出し玉ふ此池の延暦寺
中堂を建るハ是なりといふ

○扇石(イハ) 息陰寺の界門に在扇の形に似たり伝
教大師礼拝せし時扇を落し石となりしと云

○蓮華石 同所にあり蓮花の形なり

○正福寺 同村に在寿亀山と号し本尊観音
の像ハ聖徳太子の作也禅宗京妙心寺の末寺なり

○勢田寺 同村に在観景山道場院と号し浄土宗水口
大徳寺の末寺なり

○全蔵寺 同村に在歌谷山神護院と号し浄土宗水口
大徳寺乃末寺なり

○松安寺 同村に在浄土宗勢田寺の末寺なり

○氣多大明神社

○妙見社

○牛頭天王社

○天満天神社
○八王子社　倶ニ同村ニあり
○稗谷村　東内貴村東ニ在村なり
○稲荷明神社　稗谷村ニあり
○山王権現社　同村ニあり
○安楽寺　同村ニ在青雲山浄光院と号ス天台宗比叡山延暦寺の末寺なり
○恵心寺　同村ニ在浄土宗黒谷浄厳院の末寺なり
○葛木(カヅラキ)村
○寺庄(テラシヤウ)村

近江國輿地志略巻之五十二

臣　寒川辰清編輯

甲賀郡第四

○新宮九村　龍法師村柑子村磯尾村野田村野尻村新宮上野村倉治村出生野村多喜村と云
○龍法師村　倉治村の東ニ在村なり
○内保越　或ハ尾毛尾越とも云是龍法師村より伊賀国内保村ヘ越るの路也納古明神の縁起ニ曰聖徳太子内保を作り玉ふ故ニ名付くと云謂く臣按ニ是あり伊賀地志ニ曰宇都可社ハ内保村ニ在延喜式神名帳ニ云留

保賀二十五座宇都可社是也宇都可を誤て内保と云
此と云は是を以てこれを渕りの縁起霊傳なりと云へ
り川本と穴穂の皇子に始まりしよし本国史に所載あり
厩戸皇子に起りしよし本明也武夫なりとの武器の
本理なくしてなき義なり水口より此国界へ三里半在

○柑子村　龍法師村の東にある村なり

○櫻大明神社　柑子村にあり祭神白吉の神也有同村島
元重勧請する所也社僧圓也寺天台宗比叡山延暦寺の末寺也

○清福寺　同村にあり天台宗延暦寺の末寺なり

○崇福寺　同村にあり浄土宗多喜村称名寺の末寺也

○薬師寺　同村にあり浄土宗京黒谷知恩院の末寺也寺傳
伝教大師延暦年建立せんと欲し此地に入て材木を求む
所に此寺を起して杣の荘と云ことより伝教大師杣入ありし
より杣の荘と云義未詳明則に所に開基なりといふと云
本尊薬師佛脇士は不動毘沙門なり土俗云伝教大師
此地にてわが立杣に冥加あらせ給への歌を詠せしと云説也
此歌は比叡山にての詠なり

○古城址　同村にあり望月氏代々居城の地なりと
望月村島元重と云者あり元重が子を望月中務重信と
いふ剃髪して小森入道河原源廣と号し源廣が子或

望月佐渡守重家と云ふ　重家子を望月小森左衛門と云
重義元亀年中織田信長の為に亡ぼされて以後[illegible]
伊賀地志に信濃守望月の諏訪源左衛門尉重教一男を望
月信濃守重宗と云二男を諏訪美濃守貞教と云三男を
望月隠岐守為家と号し後近江守重正の子として甲賀へ
近江守と称し晩年伊賀守と改む是を記とする三族類出し

○磯尾村　杉谷村の南西に在村なり

○野田村　竜法師村の北に在村なり

○野尻村　池田村の北に在村なり

○新宮上野村

○倉治村　新宮上野村の東に在村なり

○十禅師社　倉治村にあり

○善願寺　同村に在浄土宗安土浄厳院の末寺也

○虫生野村　東内貴村の南にある村なり

○九社大明神社　虫生野村に在　祭神未詳

○山王権現社　同村にあり

○東光寺　同村に在天台宗比叡山延暦寺の末寺なし

○永福寺　同村に在浄土宗安土浄厳院の末寺なり

○浄福寺　同村に在同宗同寺の末寺なり

○多喜村　野出村の東北に在村なり　新[illegible]村に隣る

○中村式部少輔一氏ハ佐々木氏山崎の庶流にて此地の産士也
始瀧孫平次と号す後ハ此郡の名あり甲賀ハ一家也瀧氏乃
先祖ハ敏達天皇の皇子井提左大臣橘諸兄公の末孫也
平宗盛の首討し橘右馬允公長といへるより瀧氏の祖先と
又佐々木盛綱の臣子橘三橘五兄弟とて盛綱と倶し
藤戸の海を渡せしも瀧氏の祖先なり

○称名寺　多喜村にあり浄土宗安土浄厳院の末寺なり
正観音の像ハ毘首羯摩の作なり

○池田村　龍法師村の東にある村なり

○檜尾大明神社　池田村にあり祭神未詳　社僧檜尾寺文殊
院と号し天台宗比叡山延暦寺の末寺なり

○地蔵院　同村にあり浄土宗にて多喜称名寺の末寺なり

○金龍寺　同村にあり天台宗比叡山延暦寺乃末寺なり

○西念寺　同村にあり浄土宗

○極楽寺　同村にあり浄土宗

○高山村　西内貴村の西にある郷なり

○市原村

○野出村　池田村の南にある村なり

○馬杉村　多喜村の南にある郷なりて　油日の縁起に曰
聖徳太子霊験のこと箆竹を帯ひ此馬を杉の木に繋し

今の馬杉是なりと云今ハ庄堺と云地に老杉樹生ひしなりと云
○矢筈山　聖徳太子矢筈を落玉ふ處と云傳ふ油日
の縁起にみえたり俗に矢筈山と云ふ油日の縁起ハ虚浪
荒唐の論なり信ずべからず
○貴龍明神社　馬杉村にあり傳ふ此地に悪蛇ありて村民
を悩ませ天元元年中橘敏保朝臣に詔ありて此悪蛇を殺
さしむ其功により此地を敏保朝臣に賜る敏保朝臣
此地ハ太子の旧跡なる事を思ひ太子の霊を祭りて貴龍大
明神と号けしと云
○守屋塚　太子山の西十町許にあり守屋の連の塚なり

要する理なし後人の偽作なるべし
○高峰村　馬杉村の東にある村なり
○和田村　高峰村の北にある村なり
○五反田村　和田村の東にある村なり
○儀峨荘　五村あり新城中村上田小里人ハ古家也
東西四十町南北五十町許なり中に川あり松尾田村両門
のまなり儀峨氏ハ伝ふ本家にして名ある士也太平記に
載る儀峨平井といへるも此地の者なり
○新城村　水口美濃部村の東にあり
○八幡社

○春日社　僧ハ新堀村ニ在

○永福寺　同村ニ在浄土宗安養浄蓮院の末寺也

○岩神　同村ニ在水口の十軒町東也江戸の方へ行
路の左ニある大岩也土俗是を岩神と云幼児を必連来て此
岩とおせしむれば幼児必長寿堅固なりとて此村近
郷より来ることの多し

○癸塚（サヒト）　同村ニ在水口の驛を出て東江戸ニ行所
右の方ニある小塔是なり山口但馬守水口の御城在番の
所癸活供養と号し是を建てと云此所を癸塚と云事
を知れ石面ニ南無阿弥陀佛の字体書たり

○小里村　新堀村の東ニ在僧ハ東海道の大路也

○東前寺　小里村ニあり本尊薬師如来土俗是を
峰の薬師と云

○宝善寺　同村ニ在浄土宗安養浄蓮院の末寺也

○今在家村　小里村の東ニあり

○稲川　今在家村の界ニあり川幅三間許ニ源
蒲生郡日野村より流出るなり

○即翁了心居士碑　稲川の岸ニ在竪三尺七寸五分横
一尺六寸外規色内親ハ行書ニ二寸許なり厚サ五寸なり
山口志兵衛重成者勢州人也本姓住山氏初名盛

治号三左衛門其父甚左衛門吉久仕飛驒守蒲生氏郷領鈴鹿郡住山村娶小川左京之女生一女三男長曰内記也盛治者其弟也氏郷移封奥州吉久又従之盛治及十八歳来江府事修理亮山口重政慶長十八歳重政及嫡子伊豆守重信有故忤旨竄于武州入間郡越生(ヲコセ)竜穏寺盛治辛勤竭力奉之公二十年攝州難波役重政重信属掃部頭井伊直孝於河州若江重信一番合鑓兄獲首級其身亦被創冦兵追至盛治亦従其役與同僚両三人撃退来鋭負重信帰陣重信得見重政而没重政嘆盛治戦功拔群畀感書山口氏及其諱字且授家紋於是盛治改称山口志兵衛重成乱平之後重政越高野山欲至南海使盛治事雅楽頭酒井忠世寛永五年重政遇赦帰江府仕幕下采邑依旧同七年帰仕重政同十二年重政易簀次男修理亮弘隆嗣其家重成勤仕如故正保四年弘隆奉台命守江州水口城重成従行水口土山之間水乏行人苦渇重成開山麓清泉涌出盛夏不涸掘井于稲川疊石為甃大為行旅之便承應三年五月十六日重成病死年六十九号即翁了心其後経年土崩石傾其子志兵衛山口重主

頃間追其志畢修覆之功依价者請記文之履歴固
辞弗措及述其大槩作一絶示之
從役難波揚勇名稲川療渇本源亨
清泉日夜流不盡洗出忠心一寸誠
延寶己未之冬　整宇主人春常法眼林直民識
孝子山口志兵衛尉重主建焉

○夷社　今在家村にあり

○浄土寺　同村にあり浄土宗安土浄厳院の末寺也

○儀峨中村　水口の巽十八町余にあり

○十二社権現社　儀峨中村にあり

○浄福寺　同村にあり浄土宗安土浄厳院の末寺なり

○千光寺　同村にあり楊柳山千光寺と号す本尊
観音座像長二尺二寸脇士廣目増長の二天廿八部衆行
基の作当寺又天平勝宝元年行基乃開基也往
昔ハ西往坊備前坊福生坊新坊中坊常在坊伊豆坊圓聚坊
世尊院等の十坊ありしか兵乱二年全所今の中村寺院焼失し
とも云甲賀郡六大寺の一なりしに天正の兵火に堂舎悉く
烏有となる廃亡せし今纔に本尊脇士等の像安置せしを
江州札所廿七番甲賀札所廿二番なり比叡山延暦寺の末寺也
水口驛より東十條町大路の傍若神の前より川を渡り

東南三町山の中段に此寺あり佳景の地なり

○牛頭天王社　同村に在儀賦の大宮と号し當庄の産土神なり祭神素盞烏尊祭礼毎年四月朔日

○上田村　儀義町村の東に在

○中畑村　小里村の北に在村なり

○山王社　中畑村に在

○長敬寺　同村に在真宗蒲生郡内池村照光寺の末寺なり

○今宮村　今在家村の東にあり

○大野村　今宮村の東にあり

○佐治荘　神保村隠岐村佐治村平野村保佐町村五村を云ふ又小佐治村を大佐治といひ小佐治保佐町平町の三村とも佐治の三ヶ村とも云なりとぞ佐治氏は甲賀廿一家の随一なり

○隠岐村　當荘の西極の村也隠岐村の内に字越村砂坂村門の内村等の小名あり此村に佐々木隠岐五郎の子孫此地にあり佐々木五郎と墓所隠岐遠江越しに五郎出家遂に卒し給ふと家にわかに五郎の墓に村民のものそうと再び此地に帰り大圓寺に納めしよりして後隠岐村と号くといへり五郎義清ハ佐々木秀義乃

五男也隠岐国の塩冶判官高貞ハ出雲国の亀井も
此末葉なり

○香蓮寺　隠岐郡飯村ニ在リ同寺寺号延宝八
庚申年再興なり十一面観音也浄土宗安土浄厳院の末寺也

○法蔵院　隠岐郡坂村に在浄土宗安土浄厳院の末寺
なり本尊阿弥陀仏長四尺仏工春日の作寛文十庚戌年
再興開基寺祥天正八庚辰年地蔵堂を建立ス曰
那須野須氏の守本尊地蔵菩薩を移して安置ス立像
長一尺八寸聖徳太子の作なり

○大円寺　隠岐門の内村ニ在浄土宗安土浄厳院の
末寺なり寛文十年建立本尊ハ聖観音立像長三尺前
に地蔵菩薩の立像長三尺作者は隠岐五郎か本尊像之隠岐
国ニ有り其後当寺に安置ス隠岐村と号するものより
来りしと云今按するに地蔵仏の謂ハ那須氏作ニ而隠岐
五郎の所他なるの誤なるへし

○正一位大明神社　日本国に在り橘山と号ス縁起ニ曰古昔
は住吉大明神と号し当国も本村ニ伊勢大神宮あり春日
八幡賀茂鹿島の諸社西ニ菊水大明神ありて八王子権現
恒例の祭礼毎年卯月朔日の祭礼あり神輿成
業此村ニ渡御五月五日神輿奉出社之渡御神人

後の笠鉾の直垂 垂赤袴の弓末羽の烏帽の矢を持二町の
馬場を九度流鏑馬を射る勤ける 神前同して衰し
に佐々木隠岐守かの所地の内祖廷に奏し社を造営は別
正二位大明神の勅額を下し賜れ祭事怠る時なく繁栄
ありしに佐々木氏衰へし後神領も自ら大破に及びしとそ言

○神保村　隠岐村の東にあり

○長久寺　神保村にあり甚同寺末寺なり阿弥陀仏
座像長一尺許相傳此仏像古ハ水口圓観院寺の形なりしと
と云浄土宗安土浄厳院の末寺なり

○山王権現神社　同村にあり

○小佐治村　神保村の東にあり

○小佐治大明神社　小佐治村にあり祭る所二座中殿
大巳貴命東伊弉諾尊西伊弉冊尊也或云酒大明神と
號けらるゝ處なりしと云事社二殿在東を風宮と云級長津
彦命級長戸邊命也西ハ八大龍王の社なり結座の年紀
未詳棟札云文明二年庚寅卯月十九日遷宮戌時大檀那
佐治美作守平朝臣為氏建立とし

○浄善寺　同村にあり一向宗寺末寺本尊阿弥陀仏
立像長二尺許春日の作也浄土宗安土浄厳院の末寺なり

○称宝寺　同村にあり本尊阿弥陀仏立像四尺許

慈覚大師の作也浄土宗安土浄厳院の末寺なり
○観音堂　則祐宝寺の傍に在開基立石本浄仙當
よりありしと云
○虚空蔵弁堂　祐宝寺の一町斗東に在
○毘沙門堂　傍に侍に在五百年許以前よりの開
基なりと云
○常楽院　同村東の方に在本尊阿弥陀仏立像長
二尺五寸許恵心の作也浄土宗安土浄厳院の末寺なり
○平野村　小佐治村の北に在
○意教寺　同村に在浄土宗安土浄厳院の末寺也

開基未詳佐治氏の臣也富野弾正左衛門平野村を知行
せし時當寺を開基して菩提所となしと云伝ふなり
○伊佐野村　平野村の東南に在
○修善寺　伊佐野村に在本尊阿弥陀仏立像長
二尺五寸許浄土宗安土浄厳院の末寺也開基又詳ならず
○一色氏墓　修善寺の界内に在相伝一色氏某敗走して
此處にて自害せし者の墓なりと云
○天神社
○八幡社　傍に修善寺の界内に在相伝一色氏の霊
を祭り神と称して八幡宮と崇むと云

○大原莊　高木村高野村鳥居野村中村上田村
大久保村神村櫟村市場村和田村五反田村油日谷村
以上二十八村と云大原本村とも云　此外ハ油日谷村を除く　明り古書
に法様に所なりと盛衰記に見えたり　佐々木源三秀義此
辺にて陣所富田家助平田四郎貞継法師等と戦ひ壬生
新居次郎盛員に射られて秀義戦死の地也事ハ盛衰記に
見えたり

○上山村　隠岐村の西にある村なり

○上野村　高山村の東にある村なり

○鳥居野村　高野村の東にある村なり

○牛頭天王社　鳥居野村にある社也山を祇園山と云所祭
の神ハ京東祇園の社と相同し　大原荘九村の産土神なり
祭礼毎年六月十三日夜より同十四日午の刻まで勤之山渡
神楽踊ある村民催之古伝古書伊賀国川合村より勧請
せしと云故に川合も祇園社とも大原谷の祇園社とも云社僧
あり大原山河合寺と云河合寺ハ抛谷にして寺院五坊
延成院覚寿院吾寿院福善院龍泉院といふ皆
比叡山延暦寺の末流なり

○多門寺　鳥居野村にあり浄土宗

○中村　高野村の東にある村なり

○大宝寺　中村ニ在浄土宗京西谷光明寺の末寺也

○長福寺　同村ニ在浄土宗

○上田村　大久保村の北ニ在村なり　上田三河守ハ甲賀五十三家の内なり

○常光寺　上田村ニ在大慶山常光禅寺と号ス建武年中の開基なる十一面観音恵心乃作開山古航禅師其後乱世故取失ス或ハ浄土或ハ天台の僧住職ス中興幻住和尚住院してより禅宗ニ復帰ス京都妙心寺の末寺なり

○蕉齋寺　同村ニ在浄土宗

○八幡社　同村ニ在

○大久保村　中村の東ニある村なり是号し古昔窪大蔵の在し地なるべし　窪大蔵の事ハ累年紀の条下ニ記す

○林松寺　大久保村ニ在浄土宗

○大日堂　同村ニあり

○薬師堂　同村ニあり

○神村　大久保村の東ニ在村なり

○佛生寺　神村ニ在

○延命寺　同村ニ在

○若王寺　同村ニ在

○諏訪明神社　同村にあり

○相撲村　今居町村の東門を隔て南に在村也相撲村の東八坂田郡の条下に出る

○慶治寺　相撲村にあり浄土宗

○八王寺　同村にあり天台宗

○市場村　相撲村の西にある村なり

近江國輿地志略巻之五十三

臣寒川辰清編輯

甲賀郡第五

○油日谷七村　油日村上野村須山村野村田堵野(ツトノ)村毛枚(ケヒラ)村櫟野(イチイノ)村以上と云

○古戦場　盛衰記云伊賀國山田郡の住人平田四郎貞継法師といふものあり是ハ平家の士肥後守貞能が弟也平家西国に落下て安堵しかたくと思ひけれハ日比の重恩忘れかたく当家に志ある者伊賀伊勢両国の勇士をもよふし平田の城に籠り会しを江の[illegible]

さるほとに近江来入へしと申入られハ伊予守源三位季義我身
も老躰なれと東山西国の軍にハ子息をさし遣し
下向せられたり紀路に敵の籠り居るとききて路より
まわりけるを国中の兵を催し集て伊賀国へ発向す
甲賀上下の郷乃少輩ともつまりけれハ相従ふ兵數ハ諸勝
寺并大原乃荘に入平家ハ伊賀の壬生野平田に立行在
二里を隔て居たりけるも伊賀國の住人壬生野新源次能盛と
いふもの計れけるハ當国ハ分内狭く大勢乱入て兵の煩
人の歎きなりとて近江へ打出て鈴鹿山をこし済にあてゝ
軍をせんに敵よりハ兎せんを敵使をして山に引籠るな

とて一戦せすしてつまりて源次能盛 貞能法師 三百余騎
を引率して 柘植のにし野左芝打越て近江国甲賀郡
上野村檜窪篠原田堵野に陣取て少しも引退かすして
まち懸けたり源氏ハ大原荘油日の明神の北後に引取て南に
向て陣をとる源平の間に小河を隔て相支たり両陣七八段にハ
過さりけれとも互に名乗合て散々に射る死する者多かり
勝負いまたわかたす平家ハ思ひ切りけれとも命を惜まぬ
者なし源氏の軍中にありけれハ源三位季義一陣に
すゝんて平氏ハ宿運已につきて西海に落られぬ残
黨いかてか源家を傾くへきなりと若黨ともを勧めけれ

下知しけるゆへ壬生野新源次經盛十三歳なりしか次よりすゝみて
くゝみて放矢透るを射させし馬より落る義の郎等
敵をとらんとせしを目をかけて走よりかゝみて放矢を經盛
馬より更に射落さる敵の頸をとらんとおりしを乗馬の手
馬をとばしてまかりきの頸をかき落して壬生野の館に
馳入るといへり東鑑壽永三年八月二日戊午條曰佐
々木源三秀能相具五郎義清合戰之處秀能為平
家被打取畢云々此所の事なるへし

○油日村　櫟野村の南にあり村の西の神社
ありに出

○油日大明神社　油日村にあり　油日社僧金剛寺之
畧記曰夫當社勸請之最初人皇三十二代用明天
皇之皇子聖徳太子為逆臣守屋追討於大和國信
貴山祈弓箭加護時有神託曰近江伊勢之國界有
高山入彼山可祈太子從神託上翠嶺童子忽然而
來負白羽鏑矢翁又來以兵術之奥秘及鏑矢献太
子曰以此矢可射斬逆臣之首吾自神代守弓箭神
也常通遊此山太子貴敬而宣奉号通山大明神云
云神悦喜之氣色顕騰天其形六臂两足如意輪觀
音後摩利支天之尊容也太子則如神託採矢弦時

繋御馬於杉樹（此處名馬杉）同所有一森号太子山又名
矢篦山採楯板地名楯打山御旗製之地号旗岡製
内保地号内保暫御座所号御所牧也太子以通山
大明神之所賜之鏑矢誅守屋也其後為報神恩勝
照四年戊申卯月日當國有行幸依勝軍之曰縁先
号於甲賀尓然後天延三年丁丑七月日嶽上有大
光明依之贈正一位油日大明神之号云〻已採らす
に此畧記全文分明ならされは信不足採用本朝の年号は孝
徳天皇より始り大化白雉の後齊明天智此朝年号なくて
東十七年白鳳朱雀乃後持統天皇まても年号なかりし

東十年文武帝元年より四年まては年号なし
其五年より始て年号を造て大宝と号せし以後年号たえ
續して不絶これより先後世に勝照の年号ありとするは
しかして守屋を逆臣にして事甚不當なり先賢注ま
比ろ小論あり守屋忠あり何ぞ逆臣にあらん守屋を殺
し勝軍と呼しを郡を甲加と名付くるの説まれ
不可し倭姫世記には甲可天武紀には鹿深（カフカ）聖武紀には
甲加朝野群載天暦十年の官符には甲可に作る
志かれは甲可とも甲賀とも鹿深とも通用の假名書
なり文字の訓読にかゝはるへき義ならすまた天延

三年嶽よ大光明あり放なく油日の神号をなさるの
よし記ふ描けり　三代実録曰元慶元年十二月三
日己巳授近江國正六位上油日神従五位下云々
元慶ハ人皇五十七代陽成天皇の年号なり天延ハ人皇六
十四代圓融天皇の年号なり元慶元年と天延三年とハ
九十七年違へり淡海録よハ舊古記を以正説とし渋
まりとしと云り両書とも當社よ祭る神躰を詳にいへしも
尾張風土記を按るに海部郡霊向山西乃傍有神
号油日宮大山咋神よ和す雅之云へ是を以考るハ當
社も亦大山咋神と和す雅なるとや日の社傳今刻

寺の神宮記霊傳人と書されて東寺し

○油日越　是とよさの越といふ油日村より伊賀
國柘植村へ出る路なり土山より国界へ二里国界より伊
賀国上野へ四里半水口より国界へ二里半国界より伊賀
の国上野へ五里半なり

○上野村　油日村の西にある村なり

○須山村

○野　村　頓宮村の東北村なり

○田堵野村　上野村の西にある村なり

○毛牧村　高峰村の北にある村なれ

○楯打山　沖田の縁起に曰聖徳太子守屋を戮さんと欲して楯板を採りし地故に号くといふ
○旗岡　同日聖徳太子旗を製し玉ふの地なりといふ
○御所牧　同日聖徳太子憩しの御座所なりといふよりて号けしとぞ
○櫟野村　上野村の東北にある村なり
○櫟野寺　櫟野村にあり寺号観音寺伝教大師櫟の生樹を以観音の像を彫刻す脇侍に薬師地蔵釈迦及田村麿の像あり天台宗比叡山延暦寺の末寺なり
○圓鏡院　同村にあり禅宗堀田氏
○阿弥陀寺　同村にあり浄土宗
○安國寺　同村にあり浄土宗
○古城址　同村にあり瀧川氏居城の跡也といふ
○頓宮御牧
○岩室荘七村
○岩室村　神村の北にある村なり
○岩室明神社　岩室村にあり祭神詳ならず
○徳原村　岩室村の北にある村なり

○市場村　徳原村の東にある村なり

○前野村　市場村の東にある村なり

○多樹神社　前野村にあり別当観音寺　毎年
四月戌の日祭礼あり

○五瀬村　前野村の南にある村なり

○大澤村　五瀬村の東にある村なり

○頓宮村　下駒月村の北にある村なり　頓宮（注）
播磨守政　此地を領す　若殿ハ御堂関白道長公の苗裔
なり　此地の産也　佐瀬寺山氏ハ其子孫なり　此地を
頓宮といふハ斎宮の頓宮ありし地なれバなり　斎宮内
親王伊勢へ下向し給ふ時ハ爰に頓宮ありて近江より
勢田にて此地より頓宮ありしと見えたり

○大光寺　頓宮村にあり　禅宗妙心寺の末寺也

○土山荘

○土山村　前野村の東にあり　東海道の驛なり

蕉峰先生詩に
行李東西久旅居　風光日夜憶郷閭　梅花繫馬上山
上知是崔嵬知是岨

垂加先生詩に
過盡石邊水口中　天雲暮々氣朧々　晩来止宿土山

雨明日陰晴問老翁

○高座(タカクラ)田村明神社　上山にあり祭所の神二座倭姫命
及坂上田村麿の霊也神田君記にいはく正一位高座田
村神所祭鈴鹿神社田村明神なり鈴鹿祢宜申ける
人皇十一代垂仁天皇第二皇女倭姫命なり垂仁天皇
四十五年丙子の年四月八日甲賀の翁といふ者倭姫の命
の神霊を今此地にまつる倭姫命并鈴鹿姫の命と
答ゆ者なる事口伝ありといふ田村明神は坂上田村麿
の神霊なり嵯峨天皇勅願の神社として弘仁二年辛
卯の冬初て社を営建し弘仁三壬辰の年春正月
十八日於二所華左陸の神事あり弘仁十三年壬寅卯月
八日亥子の時より今の地にうつしまつると云摂社末社二十
四座神主中島氏社之境内九町八反畝余神宮寺有之
且按るに諸神菜図に鈴鹿御前は伊弉冊尊と祀と
みえたり倭姫命と鈴鹿姫といふ説いふかし姓氏録
続日本紀と考るに田村麻呂は後漢霊帝の後なり
て坂上苅田麻呂子嵯峨天皇の御宇の人なり日本後紀
曰弘仁元年五月丙辰大納言正三位右近大将兵
部卿坂上大宿祢田村麻呂薨於粟田別業時年五
十四田村麻呂従三位左京大夫兼右衛士督苅田

麻呂子正四位上犬養孫身長五尺八寸胸厚一尺
二寸目如蒼鷹鬚編金縣有事重身則三百十斤欲
輕則六十四斤随心所欲怒目轉視禽獣慴伏平居
談笑則老少馴親云々雑々記ニ田村麿の弓勢石中
三尺を射透し遠箭拾六町ニおよぶといふ鳥居此頃正一位
田村大明神と号す年中の祭礼多くといへとも当正月十八日
をもつて祭とす鷲峯文集曰田村祠宇土山東鈴鹿山
西小路通巨盗潜蹤魑魅走塞垣草偃将軍風

○神宮寺

田村社の社僧なり千手観世音の像
を安置す田村麿出世の護持仏なり延鎮和尚此
作なりといふ鈴鹿の鬼神討治の時旗の上ニ顕れ一發千
箭の冥助を顕し給ふと記せり例の怪実論弁ニ及ばず
して明らかなる事

○田村川

田村神社前社の下を流るゝ小川也
源ハ鈴鹿嶺より出て下ハ野洲川ニ接合す安濃後土
山八町あり一名ハ土山川ともいふ此川寺虚山より土俗
古傳ニ田村丸古昔鈴鹿の鬼神と戦ふ地なり 呂搗
されば鬼神といふハかの強盗の魁首なるへし田村丸纔と
討れ賊巣穴を出て田村麿邑と争ふ賊鈴鹿ニ
かくれ入しと此の事廃ニ画し

○外白川　甲賀山谷河の下流なり十五間の小橋
と云　江家次第伊勢公卿勅使進發條下曰次就
路於外白河祓山中伊勢祇承奉迎　近江祇承退云々

○白河　橋あり長さ拾三間

○蟹坂　古山の東字首ゟ五間許古径あり
古昔此地に大なる蟹ありて往来の旅人を悩ます或僧一
偈を示して成仏せしむといふ蟹か墓とて号する墓あり
垂加翁の詩に　九曲上窮逸邐行々臨蟹坂下經
縈凶徒暴逆絶蹤去行路不難世道清被堅又執鋭
歩走共横行呉俗為兵證土人称害獰云々

永禄十一年記に云く佐々木承禎臣山中丹後守秀国
か楯籠蟹坂の城を攻崩すといふ　此辺古城ありしなる
べし今其の遺地を詳にす山中氏は佐々木定綱末男山中
八郎頼定より出て続して鈎の役了山中十郎　功有
甲賀廿一家の随一なり

○猪鼻村　蟹坂の東にある村なり

○山中村　猪鼻村南にある村なり今按るに
此地山中氏居住の跡なるべし山中丹後守秀国武功
多中猶子伊勢国日具数たびの戦甚功あり秀国か
息山中山城守は大閤秀吉公に仕へ寵臣なり

○鈴鹿越　是東海道の驛路土山驛より伊勢国坂の下へ出る路なり峠の茶店ある他ハ近江伊勢の両国の界也土山より国界へ二里あるなり是鈴鹿山坂越ともいふ此茶店より鈴鹿山ハ伊勢国に属して光鹿廊東路の往来云ひの名所といふ西の峠を越る故有明九月と呼こと ありけれハ逢て河原と名付る水勢深きして松風颯々とさこえたり又峠ニかゝる左ニ上り茶店ありならひさらひて南ハ伊勢北ハ近江なり

○篠路村　山中村の東ニある村なり

○圓通寺　篠路村にあり禅宗京都妙心寺末寺なり

○黒川村　篠路村の北にある村なり

○山安原村（アケビハラ）　黒川村の東にある村なり

○安楽越　山安原村より伊勢国安楽村へ出る路なり土山より国界へ二里国界より亀山へ十二里

○黒瀧村　山安原村の北にある村なり

○青土荘　土俗青土三ヶ村といふハ青土村青羽野村一瀬村なり

○青土村

○清涼寺　青土村にあり宝積山清涼寺と号す

禅宗法燈國師の開基なりと伝ふ中世まては大寺なりと
しか数度の兵火にかゝりて亡失せて今釈迦の大像大日
阿弥陀観音不動毘沙門等の仏像残れり昔の鐘楼
浴室等の遺跡存せり

○賀茂大明神社　同處にあり所祭山城國賀茂の神
と同し

○古城址　青木村にあり相伝ふ松宮周防守孝政
居城の跡なりといふ孝政は御堂関白道長公の苗裔
なり東漸よりして松宮村麓下にうつれり

○音羽野村
平子村の山末にある村なり

○稲荷大明神社　音羽野村にあり

○春日大明神社　同村にあり

○妙楽寺　同村にあり稲荷山妙楽寺と号す南
記由良法燈圓明國師の開基にて安元戊の年建立
の地京北妙心寺の末寺なり

○一ノ瀬村
音羽野村の北にあり村なり土山街道
往還なり此村の東山上に石の塔ありむかしは蒲生甲賀
二郡の界なり

○一ノ瀬川　源は伊勢の山間より出て鮎川村及
大河原村より流れ来て川と合し南に折れ西に轉し

一の瀬より南の関を流れ出山の西をまはり東より南
田村川と合し流れて下流横田川と成り野洲川となりて
湖に入る此川を横田の上を界し田村の下を界して或は
田川ともいふ参宮往還の大路に茶店ありて田川の茶やと
いふ此一瀬川の末流ある故の名なり

○三日出村　一瀬村の東にある村なり

○鮎川村　三日出村の北にある村なり

○於岐須越　是鮎川村より伊勢国於岐須村へ
いづるみち也此山より国界へ二里半西界より東西へ
十里半

○大河原村　鮎川村の北東にある村なり野洲川の
水上綿向嶽の山下なり

○大河原山　高山なり

○鎌田旧蹟　大河原山の中瀬ヶ嶽にあり古跡
伝鎌田兵衛政清居住の地なりと屋敷の跡石垣等
現に存せり此地伊勢近江の両界なりと村の児女に此
所と称して天狗の棲出せる所とて甚以恐怖せり
按するに鎌田政清は首藤権守通清の子にて源
義朝の家長の臣也此地に居住ありし事いかゞ考ふ
日本中興治乱記曰瀧川左近将監伴宿孫一益甲

賀郡大河原人也景行天皇後胤伴四郎傔仗資兼
末葉也木氏二引両家紋也云是を以思ふに伴氏
世々居住の迷記なるべし地名饗のなけといへるなる
べし饗掛といへるも饗田の事にあるなること明し
○大河原越　大河原村より伊勢国藤堂へ出る
道なり吉山より国界へ五里国界より東迄へ七里

圖書局文庫

国立公文書館
National Archives of Japan

国立公文書館
National Archives of Japan